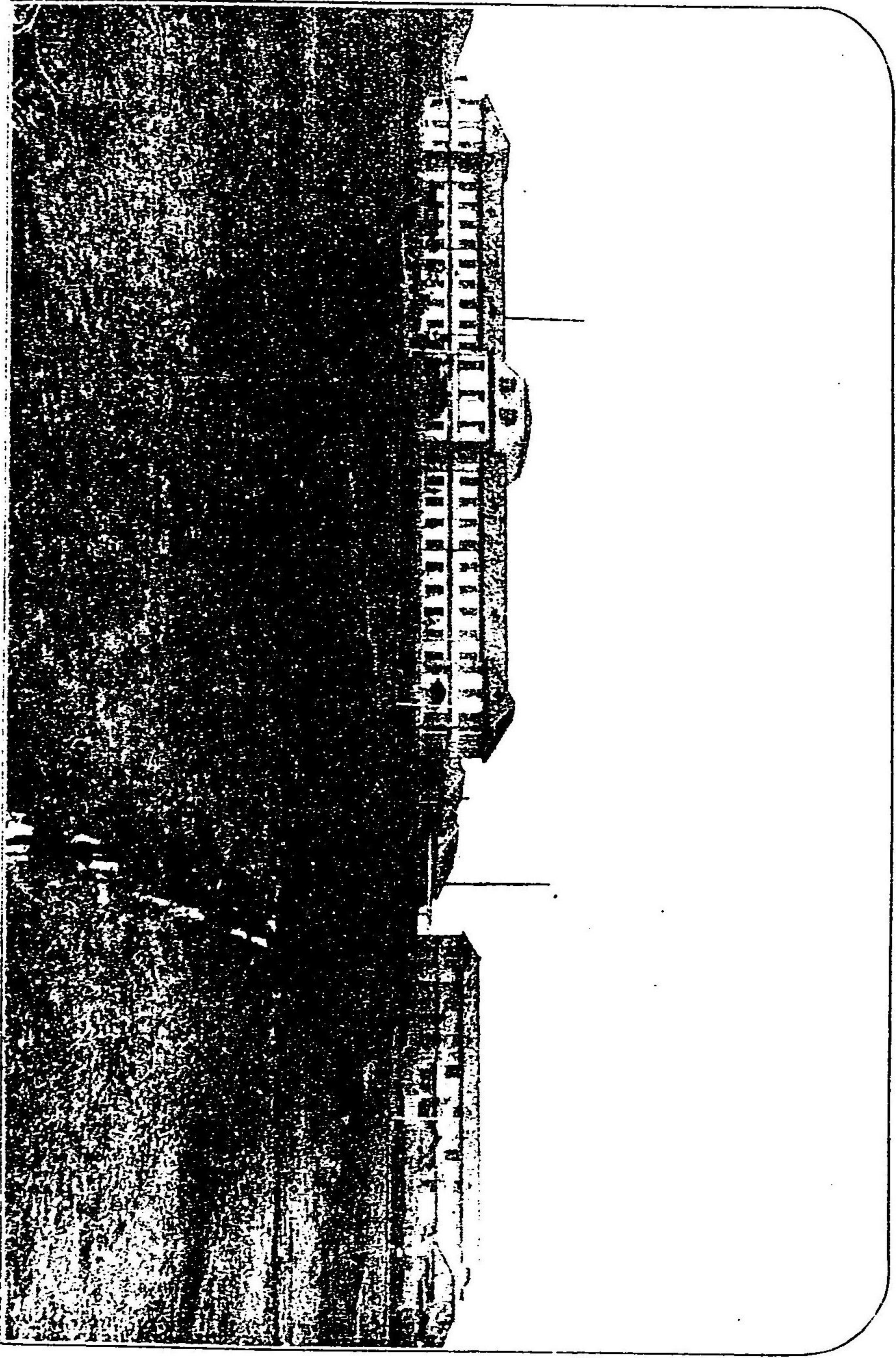


215N-4

296
別冊
3

水產講習所一覽

自明治三十七年七月
至明治三十八年六月



296-3

水產講習所一覽



一 漁業概要 一

二 漁業及組織 二

三 業務規程 六

四 商議委員規程 七

五 商議委員 八

六 職員 九

第二章 規則及規程

一 水產講習所傳習規則 一四

二 遠洋漁業練習生規程 一七

三 水產講習所傳習規程 二一

四 實習規程 四二

目次

五 生徒心得 四三

六 寄宿舎 四四

七 圖書保管及借覽規程 四六

第三章 本所敷地并建物

一 費 合 五〇

二 實習ニ關スル設備

(一) 漁撈科 五三

(二) 製造科 五六

(三) 養殖科 五七

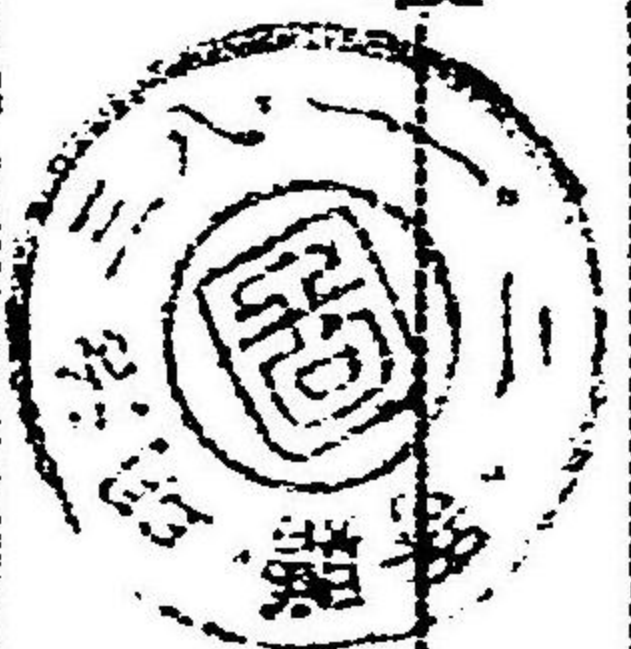
第四章 實習

一 本所實習 五八

二 所外實習 五八

三 氣象觀測 六二

第五章 生徒 徒



一 在學生徒姓名	六三
二 在學生徒府縣別	七〇
三 在學生徒年齡	七三
四 遠洋漁業練習生乘船表	七五
五 卒業生及其就職	七五
六 卒業生徒狀況	一〇五
第六章 試驗部	
附	
水産講習所學友會規則	一一

學年曆	
同	三月 日
同	二月十一日
同	一月三十日
同	一月八日
同	明治三十九年一月七日
同	十二月廿五日
同	十二月廿四日
同	十一月廿三日
同	十一月三日
同	十月十七日
同	九月二十四日
同	明治三十八年九月十一日

同	三月二十二日	紀念日
同	三月三十一日	第二學期終
同	四月一日	第三學期始
同	四月三日	休業 (神武天皇祭)
同	七月十日	學年終 (第三學期終)
同	七月十一日	夏季休業始
同	九月十日	夏季休業終
每日曜日		休業

水産講習所一覽

第一章 沿革及組織

一、沿革概要

本所ハ明治三十年四月開設シ水産ニ關スル學理ト技術トヲ授ケ諸般ノ試験ヲ行ヘリ而シテ本所ハ大日本水産會ノ設立セル水産傳習所在學ノ生徒ヲ引繼キタルヲ以テ其沿革ヲ摘録スルト左ノ如シ

明治二十二年一月大日本水産會ハ水産教育ノ必要ヲ主唱シ寄附金ヲ以テ水産傳習所ヲ東京橋區木挽町厚生館内ニ假設シ○同年七月日本橋區箱崎町ニ移轉シ後數月ニシテ又芝區三田四國町ニ轉セリ○明治二十六年五月農商務省ハ一ケ年金六千五百圓ヲ交附シテ生徒ノ養成ヲ囑托シタルヲ以テ更ニ費合ヲ三田四國町ニ番地ニ新築シテ修業年限ヲ三ケ年トシ教務ヲ擴張セリ○明治二十七年一月文部省ハ徵兵令第十三條ニ依リ官公立尋常中學校ト同等以上タルコトヲ認定ス○同年九月卒業生ヲシテ漁船船員タルノ資格ヲ得セシムル爲メ商船學校ト聯絡シ

特別入學ノ制規ヲ定ム○明治二十九年十二月文部省ハ水産科教員ノ養成ヲ囑托シ全國ヨリ十五名ヲ撰拔入學セシメタリ○同年第九議會ニ於テ衆議院ハ水産講習所ノ官設ヲ建議シ○明治三十年農商務省ハ其費用ヲ第十議會ニ請求シ官設トナシタルニ依リ水産傳習所ハ茲ニ三月十一日限り閉所セリ

治三十年三月二十二日勅令第四十七號ヲ以テ水産講習所ノ官制ヲ發布セラレ次テ諸規則ヲ定メ講習科入學ノ程度ヲ尋常中學第三學年級修業以上トシ修學ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テハ漁撈製造養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケ別ニ現業科ヲ置キテ實業者若クハ其子弟ノ就學ニ便ナラシメ又講習科卒業生ニシテ尙深ク既修ノ學科中一二ノ科目ニ就キ研究セント欲スルモノ、爲メニ研究科ヲ設ケ修業ヲ一ケ年以内トシ舊水産傳習所ノ費合ニ營繕ヲ加ヘテ之レヲ開設シ藤田四郎所長トナル○明治三十一年三月教官ヲ會合シテ講習科ノ傳習要項ヲ定ム此月葦原清風所長トナル○同年六月農商務省ハ遠洋漁業練習生規程ヲ定メテ生徒ヲ募集シ本所ニ於テ其授業ヲ開始ス○此月研究科ノ修業年限ヲ三ケ年以内トシ尙遠洋漁業練習生ヲ本所ノ研究生ト爲ス○同年七月現業科細則及傳習要項ヲ定メ同九月初メテ

罐詰及魚油魚蠟沃度製造ノ現業科生徒ヲ募集ス此月竹内正志所長トナル○同年十月官制及庶務規程ヲ改正ス○同年十一月牧朴真所長トナル○同三十二年一月文部省ハ本所講習科ヲ文官任用令第三條ニ依リ官公立中學校ト同等以上ノモノト認定シテ之ヲ告示セリ○同年十一月巾着網漁業ノ現業生徒ヲ募集ス○明治三十三年一月本所ノ規則ヲ更訂シテ講習科ヲ本科ト稱シ中學校卒業ノ程度ニ依リ漁撈製造養殖中ノ一科ヲ撰ミテ生徒ノ入學ヲ許シ又別ニ遠洋漁業練習科ヲ置キ遠洋漁業練習生規程ニ依リテ採用セラレタル生徒ノ養成ヲナスト共ニ從來ノ學期及學年ヲ變更シ毎年九月ヲ以テ學年ノ始トセリ○同年三月勅令七十二號ヲ以テ官制第二條中改正○同年六月神奈川縣下小田原町ニ所外製造實習所ノ建築ニ着手シ同年七月其工ヲ竣ヘ同八月開場式ヲ舉行ス○同年九月深川區越中島ニ本所費舍ノ新營ニ着手シ三十六年三月其工ヲ竣ユ現在ノ費舍即是ナリ○同年九月漁撈實習ノ爲メ帆船ノ新營ヲ府下石川島造船所ニ依囑シ翌三十四年四月其進水式ヲ舉行シ快鷹丸ト命名ス○同年七月ヨリ漁撈科第三學年生徒ヲ乘組マシメ各種漁業ノ實習ヲナサシム○同年四月勅令第四十二號ヲ以テ官制第二條中改正ス○同年六月初テ饅節其他節類

現業科生徒ヲ募集ス○三十五年四月文部省ヨリ水産教員養成ノ囑托ヲ受ケ全國ヨリ撰出ノ生徒十名ノ入學ヲ許ス○同年五月初メテ本科生徒中卒業後教員志望ノモノヘ實業教員養成規程ニヨリ學資ヲ補給ス○同年六月農商務省ヨリ地方水産試験場講習所職員講究會授業ノ囑托ヲ受ク○同年九月現在ノ疊舎ニ移轉ス○三十六年二月千葉縣下沖ノ島ヲ同八月鷹ノ島ヲ本所ノ所管トセリ○同十月第五回内國勸業博覽會ニ在リシ冷蔵庫ヲ本所ニ引繼キ三十七年六月之ヲ本所内ニ移築セリ○三十六年十二月露國萬國水産博覽會ヨリ本所出品ニ對シテ名譽謝狀ヲ贈與セラレ○是月官制ヲ改正シ專任ノ所長ヲ置ク松原新之助所長トナル○三十七年二月處務規程ヲ改正シ更ニ處務細則及試験部規程ヲ定メテ事務ノ分掌ヲ明ニセリ○同三月傳習規則及傳習規程ヲ改正ス○同四月千葉縣下元鹽業調査所津田沼製鹽試驗場ヲ引繼キ本所ノ實習場トセリ○三十八年六月千葉縣製鹽實習場ヲ大藏省ノ所管トセリ○同年同月製鹽技術員養成科規程ヲ定メ生徒ヲ募集セリ

二、官制

勅令第四七號明治三十年三月二十二日
勅令第二八九號明治三十一年十月二十二日改正
勅令第二三六號明治三十六年十二月四日改正

第一條 水産講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水産ノ傳習及試験ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人
技師專任	五人
教授專任	三人
技手專任	九人
助教專任	四人
書記專任	五人

第三條 所長ハ技師又ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ受ケ所務ヲ分掌ス

- 第五條 教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ受ケ教授ヲ掌ル
- 第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス
- 第七條 助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク
- 第八條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第九條 農商務大臣ハ講習上ノ須要ニヨリ水産講習所ニ商議委員ヲ設クルコトヲ得

六

三、處務規程

(農商務省訓令第四十號明治三十一年十一月二十八日)
同 第三號同 三十七年一月二十三日改正)

水産講習所處務規程

- 第一條 水産講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ處理ニ付キ其責ニ任ス
- 第二條 水産講習所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ之ヲ處分セシムルコトヲ得

- 第三條 水産講習所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上所中處務細則又ハ講習及試験ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 水産講習所長ハ講習生ノ募集人員ヲ定メ農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ
- 第五條 水産講習所長ハ講習及試験ノ成績ヲ審査編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ

但臨時必要ト認ムルモノハ其都度報告スヘシ

- 第六條 水産講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ
- 第七條 水産講習所長ハ其ノ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第八條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ水産局長ヲ經由スヘシ

四、商議委員規程

農商務省訓令第十一號 (明治三十年四月十九日)

- 第一條 水産講習所官制第九條ニヨリ水産講習所ニ商議委員ヲ置ク
- 第二條 商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ
- 農商務省高等官 一名

處務規程 水産講習所處務規程 商議委員規程

七

海軍省文部省逓信省又ハ其所屬高等官 四名以内
水産ノ經歷アルモノ 五名以内

第三條 商議委員ノ會議ニ附スベキモノハ講習科目及講習ニ關スル重要ノ諸規則
其他所長ニ於テ必要ト認ムル事項トス

第四條 商議委員會ハ農商務大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第五條 商議委員會ハ所長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス

但シ商議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得

第六條 商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定スルコトヲ得

第七條 商議委員會ノ議決ハ所長ヨリ農商務大臣ニ報告ス可シ

五、商議委員

- 東京帝國大學理科大學教授 理學博士 箕 作 佳 吉
- 水路部長 海軍少將 肝 付 兼 行
- 商船學校長 豫備海軍大佐 平 山 藤 次 郎
- 貴族院議員 田 中 芳 男

六、職員

- 所長 技師 松 原 新 之 助
- 部長 (一) 傳習部 技師 理學士 吉 岡 哲 太 郎

○漁撈科

- 主任心得 技手 川 合 角 也
- 漁撈論(材料論、防腐法) 技師 理學士 吉 岡 哲 太 郎
- 應用動物學 同 理學士 藤 田 經 信
- 漁獲物處理法 同 農學士 伊 谷 以 知 二 郎
- 應用機械學 教授 內 村 達 次 郎
- 漁撈論 技手 川 合 角 也
- 漁船論 同 小 瀬 次 郎
- 法規 講師 農商務書記官 法學士 松 崎 壽 三

商議委員 職員 九

經濟
漁船論(造船學)
海洋學
航海術、運用術
應用植物學
氣象學
外國語
數學簿記
法規
救急療法
漁撈論

快鷹丸運轉士
漁撈

○實習船

同 水產局書記官 法學士 鈴木英雄
同 工科大学助教 工學士 横田成年
同 華族女學校教授 田中阿歌磨
同 商船學校教諭 小關三平
同 中央氣象臺技手 岡村金太郎
同 囑托 井口龍太郎
同 齋藤恒太郎
同 池上泰次郎
同 高橋順平
同 北村銀平
同 中村利吉

技手 黑田九萬男
助教 下田奎一

快鷹丸事務長
主任

○製造科

書記 大橋元次郎
技師 伊谷以知二郎
同 理學士 吉岡哲太郎
同 理學士 藤田經信
同 農學士 松川温
同 伊谷以知二郎
教授 內村達次郎
同 農學士 塚本道遠
同 塚本道遠
技手 田和駒吉
同 伊笠茂松
同 佐々木繁太郎
助教 野元俊一
講師 農商務書記官 法學士 松崎壽三

製造化學、化製品、冷藏法、化學
應用動物學
化製品
食品
應用機械
分析、微生物
出征中
食品
出征中
製鹽
法規

職員

經濟	同	水產局書記官	法學士	鈴木英雄
應用植物學	同		農學博士	岡村金太郎
外國語	囑托			齋藤恒太郎
簿記	同			池上泰次郎
化學	同			西尾茂松
主任	技師		農學士	藤田經信
蕃殖保護	同		理學士	松原新之助
鹹水養殖、應用動物學	同		農學士	吉岡哲太郎
微生物學	同		農學士	藤田經信
淡水養殖	助教		農學士	塚本道遠
法規	助教		農學士	日暮忠三
經濟	同	農商務書記官	法學士	松崎壽三
鹹水養殖、應用植物學	同	水產局書記官	法學士	鈴木英雄
外國語	同		理學士	岡村金太郎
	囑托		理學士	齋藤恒太郎

○養殖科

簿記	同	池上泰次郎
圖書	同	高島信
主任	○教務掛	
出征中	書記兼助教	宮崎賢一
	書記	山田德助
主任	○生徒取締	
	技師	伊谷以知二郎
	技手	川合角也
衛生事項囑托	囑托	北村銀平
主任	○圖書掛	
	技師	吉岡哲太郎
主任	○標本掛	
	技師	藤田經信

(二) 試驗部

職員

部長

技師

十四

柁川 温

技手

小野 辰次郎

囃托

谷 中 知 信

(三) 庶務掛

主任

書記

西山 小太郎

書記

石原 重資

機械監督

教授

内村 達次郎

第二章 規則及規程

一、水産講習所傳習規則

農商務省告示第九十號明治三十七年四月改正
明治三十年四月制定同三十一年一月及九月改正追加
農商務省告示第九十號明治三十七年四月改正

第一條 本所ハ水産ニ關スル學理及技術ノ講習ヲ爲ス

第二條 本所ニ本科、遠洋漁業科、研究科及現業科ヲ置ク

第三條 本所ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ分チ各科ニ必要ナル學理及技術ヲ專修セシメ其ノ修業年限ヲ三箇年トス

第四條 遠洋漁業科ハ本所實習船又ハ其ノ他ノ船舶ニ乗組ミ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ修業年限ヲ三箇年トス但シ修業年限ハ時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルコトアルベシ

第五條 研究科ハ既修學科ノ蘊奧ヲ攻究セシメ其ノ修業年限ヲ三箇年以内トス

第六條 現業科ハ漁撈、製造、養殖ノ三科中種目ヲ限リ專ラ技術ヲ習得セシメ其ノ修業年限ヲ一箇年以内トス但シ其ノ種目ハ水産講習所長之ヲ定ム

第七條 本所ハ授業料ヲ徴收セス

第八條 學年ハ七月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第九條 入學志願者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一、本科ニ於テハ年齢滿十七歳以上ニシテ中學卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ

二、遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業練習生規程ニヨリ採用セラレタルモノ又ハ本所漁撈科卒業生

三、研究科ニ於テハ本科ノ卒業生

水産講習所傳習規則

四現業科ニ於テハ二箇年以上水産ノ實業ニ從事シタルモノ若ハ其ノ子弟ニシテ
年齢二十年以上三十年以下ノモノ

第十條 本科ヲ卒ヘタルモノニハ卒業證書遠洋漁業科又ハ研究科ヲ卒ヘタルモノ
ニハ證明書現業科ヲ卒ヘタルモノニハ修業證書ヲ授與ス

第十一條 本科生徒ニシテ學術優等品行方正他ノ模範トナルヘキモノハ特待生ト
ナシ學資ヲ補給スルコトアルヘシ

第十二條 本所ノ規則告示其ノ他命令ニ違反シ若ハ風儀ヲ紊ス等ノ行爲アル者ハ
其ノ情狀ニヨリ懲罰ヲ加フ

第十三條 學業ヲ怠リ成業ノ見込ナキ者ハ之ヲ除名ス

第十四條 本規則施行ニ關スル規程ハ水産講習所長之ヲ定ム

附 則

第十五條 本規則ハ明治三十七年七月十一日ヨリ之ヲ施行ス但シ入學ニ關スル規
定ハ明治三十七年度募集ノモノニ之ヲ適用ス

一、 遠洋漁業練習生規程

農商務省告示第十一號
明治三十一年五月六日制定同三十三年九月改正
農商務省告示第九十二號明治三十七年四月改正
同第二百二十九號同三十八年五月改正

第一條 遠洋漁業練習生ハ本科生及簡易科生トシ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヨリ
撰拔採用ス

一、 本科生

水産講習所本科漁撈科卒業生又ハ之ト同等以上ノ學術技能ヲ有スト認ムル者

二、 簡易科生

一、 各種水産學校又ハ地方水産講習所ニ於テ漁撈ニ關スル學科ヲ卒業シタル
者

二、 一年以上航洋船ニ乗組運航ニ從事シタル者又ハ二年以上沖合ノ漁業ニ從
事シタル者

第二條 前條ニ依リ採用セラレタル者ハ本科生ニ在リテハ水産講習所遠洋漁業科
簡易科生ニ在リテハ水産講習所現業科ニ於テ遠洋漁業ニ關スル學術技能ヲ練習

セシムルモノトス但シ農商務大臣ニ於テ外國ノ船舶ニ乗組ヲ命シタルトキ又ハ外國ニ派遣ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但シ書ノ場合ニ於ケル練習ノ科目方法ハ其ノ都度之ヲ定ム

第三條 遠洋漁業練習生ノ修業年限ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外本科生ハ三年簡易科ハ一年トス

第四條 遠洋漁業練習生採用ノ員數時期及本規程ニ定メサル出願ノ手續其ノ他之ニ關シ必要ナル事項ハ便宜之ヲ定ム

第五條 遠洋漁業練習生ノ志願者ハ第一號書式ニ依ル願書ニ履歷書及醫師ノ體格檢査ヲ經タル證明書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條 遠洋漁業練習生ニ採用セラレタルトキハ一週間以内ニ第二號書式ニ依ル願書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條 遠洋漁業練習生保證人ハ身元正シク相當ノ財産アル者タルコトヲ要ス保證人破産シ又ハ死亡シ其ノ他保證人ニ適セサル事故發生シタルトキハ更ニ他ノ保證人ヲ定メ遲滯ナク之ヲ届出ヘシ

第八條 遠洋漁業練習生ニハ其ノ修業年限間相當ノ月手當金ヲ支給ス但シ一時手當金ヲ以テ之ヲ代フルコトアルベシ

外國ニ派遣ヲ命シ又ハ外國ニ於テ旅行ヲ要スル調査ヲ命シタルトキハ前項ノ外別ニ旅行手當金ヲ支給スルコトアルヘシ
手當金ノ額及其ノ支給方法ハ隨時之ヲ定ム

第九條 遠洋漁業練習生ニシテ修業年限ヲ了ヘタル者ニハ其ノ成績ヲ考査シ修業證書ヲ下付ス

第十條 農商務大臣ハ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサル者又ハ成業ノ見込ナキ者其ノ他相當ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ遠洋漁業練習生ヲ解免シ又ハ手當金ノ支給ヲ停止若ハ減少スヘシ其ノ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサルトキ又ハ怠慢若ハ不品行ニシテ解免セラレタルトキハ既ニ支給シタル手當金ノ全部又ハ一部ヲ本人又ハ保證人ヨリ辨償セシムヘシ

第一號書式

遠洋漁業練習生志願書

私儀遠洋漁業練習生志願ニ付御採用相成度此段奉願候也

二十

年月日

族籍住所職業誰子弟

本人 姓名 印

生年月日

族籍住所職業

保證人 姓名 印

農商務大臣爵氏名殿

第二號書式

印紙

證

私儀遠洋漁業練習生ヲ命セラレタルニ就テハ御規則命令等堅ク遵守可致ハ勿論萬一規程第十條ニ依リ手當金ノ償還ヲ命セラレタル場合ニハ本人又ハ保證

人ニ於テ速ニ償還可致候也

年月日

族籍住所職業誰子弟

本人 姓名 印

族籍住所職業

保證人 姓名 印

農商務大臣爵氏名殿

三、水産講習所傳習規程

第一章 總 則

第一條

本所ニ於テハ水産ニ關スル學理及技術ヲ授ク

水産講習所傳習規程

二十一

- 第二條 本所ニ本科、遠洋漁業科、研究科及現業科ヲ置ク
- 第三條 本科ニ於テハ漁撈製造及養殖ニ關スル學理及技術ヲ學修セシム
- 第四條 遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習セシム
- 第五條 研究科ニ於テハ既修學科ノ濫奥ヲ攻究セシム
- 第六條 現業科ニ於テハ漁撈製造及ヒ養殖ニ關シ種目ヲ限リ其ノ實技ヲ習得セシム

第七條 修業年限ハ本科及遠洋漁業科ハ各三箇年、研究科ハ三箇年以内現業科ハ一箇年以内トス

第八條 各科募集ノ人員時期其他募集ニ關シ必要ナル事項ハ毎年之ヲ定メ廣告スヘシ

第二章 本科規程

一、學科課程

第九條 本科ハ一箇年ヲ以テ一學年トス其ノ學科及課程左ノ如シ

學科	漁撈科		學年
	第一學年	第二學年	
漁	六	五	不定時
航	二	三	不定時
海	二	二	不定時
氣	二	二	不定時
應	三	二	不定時
應	一	二	不定時
漁	二	三	不定時
應	一	二	不定時
數	三	二	不定時
法	二	四	不定時
外	四	二	不定時
救	二	二	不定時
計	二八	二三	
實	一	二	不定時
習	同	同	不定時

水産講習所傳習規程

習實及驗實 養微藻發植動化	計	圖外法化溇微發應應蕃鹹淡	第一學年
		規 經 國 濟 及 簿 生 洋 菌 用 用 植 動 殖 水 水 物 物 保 養 養 語 記 學 學 學 學 學 學 護 殖 殖	
生	計		第二學年
殖菌類生物物學	計		第三學年

養殖科

習實及驗實 製微分化	計	外法應應應微分化製化食	第一學年
		規 經 國 濟 及 簿 用 用 機 植 動 生 物 物 菌 析 學 學 學 學 析 學 學 論 論	
生	計		第二學年
造菌析學	計		第三學年

製造科

數學ハ代數幾何、三角術、圖書ハ自在書、外國語ハ英語トス

二、學年學期及休業

第十條 學年ハ七月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第十一條 本科ノ學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ三月三十一日ニ至リ第三學期ハ四月八日ヨリ七月十日ニ至ル

第十二條 休業日左ノ如シ

- 一日 曜日
- 一大祭及祝日
- 一冬季休業 自十二月二十五日 至翌年一月七日
- 一紀念日 三月二十二日
- 一春季休業 自四月一日 至四月七日
- 一夏季休業 自七月十一日 至九月十日

第十三條 實習ハ休業中ト雖時宜ニヨリテ從事セシメ本科第三學年及遠洋漁業科ニ於テハ夏季休業ヲナサス

三、入學

第十四條 入學ハ學年ノ始メトシ學年ノ終リニ於テ入學試業ヲ行ヒ之ヲ許可ス

第十五條 入學志願者ハ三科中一科ヲ撰ヒ入學ノ後ハ轉科スルコトヲ許サス

第十六條 入學者ノ資格ハ中學卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ年齡滿十七年

以上ニシテ入學試業ニ合格シタルモノトス

第十七條 入學試業ハ中學卒業ノ程度ニヨリ左ノ學科ヲ試験シ及體格検査ヲ行フ

- 一讀書 國語漢文
- 一作文 漢字交リ文、日本文
- 一動物學
- 一植物學
- 一物理學

水産講習所傳習規程

- 一 化學
- 一 地理 本邦地理及外國地理
- 一 數學 算術、代數、幾何、三角術
- 一 外國語 (英語、英文和譯、和文英譯、文法)
- 一 圖畫 自在畫

第十八條 入學志願者ハ第一號及第三號ノ書式ニ依リ各地方廳ヲ經由シ入學願書並ニ履歷書ヲ差出スヘシ但シ東京ニ於テ受験セントスルモノニアリテハ直ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

第十九條 地方ニ於テ入學試業ヲ施行スル場合ニハ第五號書式ノ檢查書ニヨリ入學志願者ノ體格ヲ檢定ス

第二十條 退學シタルモノ再入學ヲ請フトキハ詮議ノ上學年ノ始メニ於テ原級以下ニ編入スルコトアルヘシ

四、在學

第二十一條 入學ノ許可ヲ受ケタルモノハ其年九月十日迄ニ第四號書式ノ在學證

書ヲ差出スヘシ

第二十二條 保證人ハ二人トシ内一人ハ父兄親戚又ハ其入學者ニ學資ヲ支給スルモノ他ノ一人ハ東京市公民タルヲ要ス

第二十三條 保證人死去シ若ハ轉住スル等ノコトアルトキハ速ニ之ヲ改メ轉居、旅行、改印等ノコトアルトキハ其都度直ニ届出ツヘシ

第二十四條 入學ノ許可ヲ受ケタルモノ第二十一條ノ成規ヲ履行セザルトキハ在學スルヲ得ス

五、缺席、缺課

第二十五條 疾病其他ノ事故ニヨリ缺課、缺席セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ通學生ハ保證人連署寄宿生ハ生徒取締ノ證明ヲ得テ之ヲ届出ヘシ

但疾病ニ因リ引續缺席一週間以上ニ涉ルトキハ通學生ニアリテハ本所ニ於テ適當ト認ムル醫師ノ診斷書寄宿生ニアリテハ本所囑托醫ノ證明書ヲ其ノ届書ニ添付スヘシ

水産講習所傳習規程

六、休學

三十

第二十六條 疾病其他ノ事故ニヨリ一學期以上修學スルコト能ハサルモノト認ムルトキハ其ノ學年間休學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十七條 休學ノ許可ヲ得ントスルモノハ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ其ノ疾病ニ因ルモノハ本所囑托醫又ハ本所ニ於テ適當ト認ムル醫師ノ診斷書ヲ其ノ願書ニ添付スヘシ

第二十八條 休學者ハ次學年ノ始メヨリ原級ニ編入ス

但シ一年志願兵トナリ服役滿期後直ニ就學セントスルモノハ其學年ニ於テ原級ニ編入ス

七、特待

第二十九條 學術優等品行方正ナルモノハ特待生トナスコトアルヘシ

第三十條 特待生ニハ學資ヲ補給ス

第三十一條 特待生ニシテ品行不良業懈怠若ハ疾病ニ罹リ修業ニ堪ヘ難シト認

ムルトキハ其特待ヲ停止ス

八、懲罰

第三十二條 規則若ハ命令ニ違反シ又ハ怠惰不品行其ノ他生徒タルノ本分ニ背クノ行為アルモノハ懲罰ス

第三十三條 懲罰ヲ別テ戒飭停學放所トス

九、退學及除名

第三十四條 疾病又ハ其他ノ事故ニ因リ退學セントスルモノハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署願出ヘシ

第三十五條 左ノ事項ニ該當スルモノハ之ヲ除名ス

- 一 數々遅刻缺課又ハ缺席スルモノ
- 二 一ヶ月以上無届缺席スルモノ
- 三 一學期間全ク出席セサルモノ
- 四 停學ノ處分三回ニ及フモノ

水産講習所傳習規程

三十一

五 二學年同一ノ學級ニ在リテ進級スルコトヲ得サルモノ
六 成業ノ見込ナキモノ

三十二

十、試業進級及卒業

第三十六條 學科ノ試業ハ一學期間一回以上隨時ニ之ヲ行フ

第三十七條 實驗及實習ノ評點ハ平生ノ成績勤怠及報告書ニ依リ之ヲ定ム

第三十八條 試業ノ評點ハ一百ヲ以テ定點トス

第三十九條 各學期ノ終ニ於テ其ノ學期間ニ於ケル學科及實驗實習ノ評點ヲ計算

シ其ノ平均點ヲ以テ學期試業各學科及實驗實習ノ得點トス

第四十條 各學年ノ終ニ於テ當該學年中ノ學期試業各學科ノ得點ヲ平均シ之ヲ其

學年各科目ノ得點トナス

第四十一條 學年ノ成績各學科ノ得點五十以上實驗實習ノ得點六十以上平均點六

十以上ヲ得タルモノハ進級又ハ卒業セシム

但シ學科ノ得點ハ一科目ニ限り四十點以上五十點未滿ノ得點アルモ進級又ハ卒業ヲ妨ケス

第四十二條 最終學年ノ試業ニ及第シタルモノニハ卒業證書ヲ授與ス

第四十三條 在學中學業優等品行善良ナルモノニハ特ニ優等卒業證書ヲ授與ス

第三章 遠洋漁業科規程

第四十四條 遠洋漁業科生徒ハ遠洋漁業練習生トシテ採用セラレタルモノ及本所

漁撈科卒業生ノ志願者ヨリ撰拔セラレタルモノトス

第四十五條 本科漁撈科卒業ノ資格ヲ有スル志願者ノ員數定員ニ超過スルトキハ

試験ニ因リ許否ヲ決ス

第四十六條 遠洋漁業科ニ於テハ生徒ヲ本所實習船又ハ内國若ハ外國ノ漁船ニ乘

組マシメ漁業航海運用其他遠洋漁業ニ必要ナル學術ヲ練習セシム

但シ時宜ニヨリ期間ヲ定メ本所ニ於テ必要ナル技術ヲ練習セシムルコトアル
ヘシ

第四十七條 外國ノ乗船ニ船舶マシムルモノ又ハ特ニ練習ヲ要スルモノニ就テハ

其ノ修業年限ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十八條 特別ノ技能アル者ニ關スル修業年限及練習ノ方法ハ必要ニ應シ隨時

之ヲ定ム

三十四

第四十九條 疾病其ノ他止ヲ得サル事由ニ因リ修業ニ堪ヘ難キ者ニ對シテハ期間

ヲ定メテ休學ヲ命スルコトアルヘシ休學ノ期間ハ之ヲ修業年限ニ算入セス

第五十條 乗船實習中ハ毎月乗船月表ヲ調製シ船長ノ認印ヲ受ケ寄港ノ際之ヲ本
所長ニ差出スヘシ

第五十一條 乗船實習中ハ漁撈日誌ヲ調製シ毎日ノ觀測操業漁況其ノ他必要ノ事
項ヲ記入シ船長ノ認印ヲ受ケ實習終了ノ後之ヲ本所長ニ差出スヘシ

但シ實習中ト雖モ檢閲ノ必要アルトキハ其ノ提示ヲ命スルコトアルヘシ

第五十二條 下船中練習セシム可キ事項ハ隨時之ヲ定ム

第五十三條 修業ヲ完了シタルトキハ乗船月表漁撈日誌及成績ヲ考查シ證明書ヲ
交付スヘシ但シ必要ニ應シ特ニ試業ヲ行フコトアルヘシ

第五十四條 本規程中ニ定ムルモノヲ除クノ外本科規定ヲ準用ス

第四章 研究科規程

第五十五條 研究科生徒ハ本科卒業生ノ志願者ヨリ之ヲ撰拔ス

受クヘシ

第五十七條 學術特ニ優等ナル研究生ニハ學資ヲ補給スルコトアルヘシ

第五十八條 研究生ハ教官ノ指導ヲ受ケ研究ニ從事スルモノトス

第五十九條 必要アルトキハ本所外適當ノ場所ニ於テ研究ニ從事セシムルコトア
ルヘシ

第六十條 研究ヲ結了シタルトキハ研究事項ニ付キ論文ヲ提出スヘシ

第六十一條 論文ヲ考查シ相當ノ資格アリト認ムルトキハ證明書ヲ授與ス

第六十二條 學資ノ補給ヲ受クルモノニシテ放所ニ處セラレ又ハ自己ノ便宜ニヨ
リ中途廢學シタルトキハ支給シタル學資ノ全部又ハ一部ヲ返納セシム

第六十三條 本規程中ニ定ムルモノヲ除クノ外ハ本科規程ヲ準用ス

第五章 現業科規程

第六十四條 入學者ハ二箇年以上水産ノ實業ニ從事シタルモノ若ハ其ノ子弟ニシ
テ年齡滿二十年以上三十年以下ノモノタルコトヲ要ス

水産講習所傳習規程

三十五

第六十五條 入學志願者ハ本所規程第十八條ニ準シ出願シ第五號書式ノ體格検査書ヲ其ノ願書ニ添付スヘシ

第六十六條 入學志願者ノ員數ガ定員ニ超過スルトキハ其經歷ト地方ノ狀況ニヨリ許否ヲ決ス

第六十七條 實技ヲ習得セリト認メタルモノニハ修業期ノ終リニ於テ之ニ修業證書ヲ授與ス

第六十八條 本規程中ニ定ムルモノヲ除クノ外ハ本科規程ヲ準用ス

書式

第一號書式(用紙美濃紙)

入學願書

私儀御所本科何々科(現業科)へ入學(何々専修)志願ニ付御試業ノ上(現業科ニハ御試業ノ上ヲ省ク)御許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

本籍族家業
某男子弟等

年月日

何 某 印

何年何月何日生

宿所(東京云々)

水産講習所長某殿

第二號書式(用紙美濃紙)

入學願書

一何々々(研究ノ事項)

私儀何年何月御所何科卒業致候處尙前記ノ事項ニ就キ何年間在所研究致度候間御詮議ノ上入學許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

本籍族家業
某男子弟等

年月日

何 某 印

何年何月何日生

宿所(東京云々)

水産講習所長某殿

第三號書式(用紙美濃紙)

履 歷 書

學 業

一何年何月日何地官(公私立)何學校ニ入り何學科何學年級修業或ハ全科卒業
 一何年月日何地何某ニ從ヒ何年間何學修業用書何々(卒業證書ヲ有スル者ハ其
 寫及校長ノ證明書ヲ添ヘ實業ニ從事シタルモノハ其經歷ヲモ記入スベシ)
 賞 罰

一何年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受ケタル事
 右之通相違無之候也

年 月 日

何 某 印

第四號書式(用紙美濃紙)

(印紙貼用)

在 學 證 書

私儀今般何々科へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク遵守シ専心勉勵卒
 業ニ至ル迄猥々ニ退學等致ス間敷候仍テ在學證書如件

本籍 某 印

某男、子弟等

年 月 日

何 某 印

何年何月何日生

宿所(東京云々)

右某今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク相守ラセ且本人ニ係ル一切
 ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申ハ勿論御所御趣意ノ旨ヲ體シ平素督勵可致候仍
 テ保證如斯候也

族籍職業(學生トノ關係)

保證人 何 某 印

何年何月何日生

宿所

族籍職業(學生トノ關係)

保證人 何 某 印

何年何月何日生

宿所

水産講習所長某殿

前書保證人某ハ當區公民ニ相違無之候也

何 區 長 印

第五號書式(用紙美濃紙)

體 格 檢 查 書

族籍某男子弟等

何 某

何年何月何日生

- 一體 格 (甲、乙、丙) 最モ強健ナルヲ甲トシ之ニ亞クモノヲ乙トシ現ニ疾患ナキモ身體薄弱ナル者若クハ著シキ病歴ヲ有スルモノヲ丙トス
- 一體 質 (強健、稍弱、弱) 特別ナル事項ハ其條件ヲ記ス

一身 長 (何尺寸分)

一體 重 (何貫匁)

一胸 圍 (何尺寸分) 常時充盈、空虛及其差

一肺 活 量 (何千何百立方センチメートル)

一視 力 (何々) スネルン氏ノ檢視法ニ依リ左右共其中心視力ヲ檢シ辨色力眼疾ヲモ檢査スベシ

一聽 力 (尋常、過敏、遲鈍) 左右兩耳ニ就キ、中時計ニテ可及的其聽取ノ最遠距離ヲ測定シ、センチメートルニテ記入シ、尙障害ノ有無及耳疾ヲモ檢査スベシ

一神 經 系

一呼 吸 器

一血 行 器

一皮 膚 其 他

一脊 柱

一齒 牙

一痘

水産講習所傳習規程

一己往現在ノ疾病又ハ畸形

年月日

四十二

公立病院醫病院ナキ地方ハ内務省免許醫

何 某 印

四、實習規程

- 第一條 實習ハ本所及ヒ實習場實習船又ハ本所指定ノ場所若ハ船舶ニ於テ實習ニ従事セシム
- 第二條 實習ノ事項及期限ハ實習課程ニ準據シ之ヲ定ム
- 第三條 實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ其往復ノ旅費ヲ支給ス
但遠洋漁業科生徒ニハ旅費ヲ支給セス
- 第四條 實習ニ付テハ擔當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受クベシ
- 第五條 各組ニ組長副組長各一人ヲ設ケ其ノ組員ニ對スル通達其他ノ實習ニ關スル諸般ノ整理ニ任セシム
- 第六條 實習中ハ規定ノ實習服ヲ着用スヘシ

- 第七條 實習シタル事項ニ付テハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作成シテ擔當教官ニ出スベシ
但遠洋漁業科生徒ニ在リテハ水産講習所傳習規程第五十條及第五十一條ニ依ル

- 第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セントスルモノアルトキハ其事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ受領スルヲ得ス

五、生徒心得

- 第一條 本所々定ノ條規ニ準據シ生徒ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アル可カラス
- 第二條 本所ノ制服及制帽ハ入學後一ヶ月以内ニ於テ調製シ之ヲ着用スヘシ
- 第三條 事故ニ依リ制服又ハ制帽ヲ着用スルコト能ハサル事情アルトキハ豫メ時日ヲ限リ寄宿生ハ生徒取締通學生ハ保證人連署ヲ以テ願出許可ヲ受クヘシ
- 第四條 控所ノ外糞舍内ニ於テハ喫煙スヘカラス
- 第五條 通學生ハ許可ナクシテ寄宿舍ニ出入スヘカラス
- 第六條 告示ハ掲出ノ日ヨリ一般ニ了知シタルモノト認ムヘキカ故ニ常ニ揭示ニ

實習規程 生徒心得

四十三

注意スヘシ

四十四

第七條 學術研究又ハ實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ出發歸所共ニ届出ヘシ

六、寄宿舎規程

第一條 寄宿生ハ生徒取締ノ監督ヲ受クヘシ

第二條 寄宿生ハ規律衛生等ニ關スル規約ヲ設ケ所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ

第三條 寄宿舎ハ毎年九月十日ニ開キ翌年七月十一日ニ閉ツ

第四條 毎朝夕所定ノ時限或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受クヘシ

第五條 寄宿生ハ左ノ時限ノ外ハ外出スルヲ許サス

一、平日ハ終業時後午後九時迄土曜日ハ午後十時迄

二、休業日ハ午前點檢後ヨリ午後十時迄

但事宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第六條 外泊又ハ時限内ニ歸舎シ難キ事情アルモノハ、豫メ保證人連署ヲ以テ願出

テ許可ヲ受クヘシ

但至急ヲ要スル場合ハ口頭又ハ書面ヲ以テ生徒取締ノ許可ヲ得後本條ノ手續

ヲナスベシ

第七條 許可ナク歸舎ノ時限ニ後レ又ハ外泊シタルモノハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ届出ヲ其處分ヲ待ツヘシ

第八條 入舎又ハ退舎セントスルモノハ規定ノ用紙ニ認メ保證人連署ノ上願出ツヘシ

第九條 管理上ノ便宜ニヨリ寄宿生ヲ數部ニ分テ各部ニ部長副部長各一人ヲ置キ寄宿舎生徒取締ノ指揮ニ從ヒ部内一般ノ取締ニ任ス

第十條 物品ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ其ノ情狀ニヨリ之ヲ修補又ハ辨償セシム

第十一條 寄宿舎食費等ハ毎月五日迄ニ生徒取締ノ檢證ヲ經テ支拂フヘシ期日ヲ經過スルモ拂入レサルトキハ其情狀ニヨリ退舎ヲ命ス

第十二條 外來人トノ面會ハ應接所ニ於テスヘシ

第十三條 舎内ニ於テハ和服ヲ用ウルコトヲ得

七、圖書保管及借覽規程

一 圖書保管規程

- 第一條 本所ノ圖書ハ圖書掛圖書取扱主任ニ於テ之ヲ保管ス
 - 第二條 圖書ハ各部門ニ別チ番號ヲ附シ點檢ノ便ニ供スヘシ
 - 第三條 圖書原簿ヲ製シ之レニ書名、編著者名、部門番號、冊數ヲ記載スヘシ
 - 第四條 圖書出納簿ヲ製シ出入ヲ記載スヘシ
 - 第五條 圖書ハ毎年一回若ハ二回原簿ト對照シ之レカ點檢ヲ爲スヘシ
 - 第六條 點檢ノ際ハ圖書ノ補綴又ハ曝涼ヲ爲スヘシ
 - 第七條 寄贈ニ係ル圖書ハ目錄ヲ製シ所長ニ供覽シ保存スヘキモノト否ラサルモノトヲ定メ且謝狀ヲ送ルヘキモノハ其手續ヲ爲スヘシ
 - 第八條 雜誌及報告書類ニシテ保存ヲ要スルモノハ圖書同一ニ保管スヘシ
 - 第九條 各部、科掛ニ平常備ヘ置クヘキ圖書ハ部長又ハ主任ヲミテ之ヲ保管セシムヘシ
- 但シ圖書掛ニ借用証書ヲ差出スヘシ

- 第十條 前條備付ノ圖書ハ時々圖書取扱主任ノ點檢ヲ受クヘシ
- 第十一條 圖書斷破シテ使用ニ堪ヘサルモノハ庶務掛ヘ引繼キ廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ

- 第十二條 他官廳ヨリ借入タル圖書ハ圖書掛ニ保管シ職員ニ貸付スル場合ハ圖書借覽規程ニ從フ

二 圖書借覽規程

- 第一條 圖書ハ本所職員及囑托員ニ限リ借覽ヲ許ス
但シ職員、囑托員、其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用圖書ヲ返納セシム
- 第二條 圖書ヲ借覽セントスルモノハ書名、部門、番號、冊數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ捺印ノ上各部長又ハ各科掛主任ノ檢印ヲ受ケタル既定ノ借用証ヲ圖書取扱主任ニ差出スヘシ
- 第三條 圖書借用期限ハ通常三十日トス尙ホ繼續セントスルトキハ各部長又ハ各科掛主任ノ承認ヲ得タル上圖書掛ヘ借用延期ノ請求ヲ爲シ圖書取扱主任ノ承諾及檢閲ヲ受クヘシ

第四條 平常各部又ハ各科掛ニ備置クヘキ圖書ハ各部長又ハ主任ヨリ証書ヲ差出シ六ヶ月ヲ一期トシ借用スルコトヲ得

第五條 前條圖書ハ所外ニ携出スルコトヲ許サス

但シ特ニ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第六條 補綴又ハ曝涼其他圖書整理ノ爲メ一時各部科掛備付ケノ圖書ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第七條 貴重ノ圖書、辭書類ハ閱覽室外ニ携出ヲ許サス

但シ閱覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第八條 他廳ヨリ圖書借用ノ申込アルトキハ圖書取扱主任ハ所長ヘ稟議ノ上許否ヲ定ムヘシ

第九條 他廳ヨリ圖書借用ノ必要アルトキハ圖書取扱主任ニ於テ所長ヘ稟議ノ上借入及返還ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條 借用者圖書ヲ返納スルトキハ同時ニ本人ニ証書ヲ返戻スヘシ

第十一條 借用ノ圖書ヲ汚損又ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又ハ同一ノ圖書ヲ

以テ償ハシメ若クハ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十二條 借用者ニシテ前條ノ義務ヲ果タサ、ル間ハ圖書ノ借覽ヲ許サス

第三章 本所敷地並建物

明治三十年創設ノ當時ニ於テハ舊水産傳習所ノ建物ヲ充用シタリシモ狹隘ニシテ完全ノ設備ヲナスコトヲ得サリシヲ以テ明治三十二年其新營ヲ計畫シ地ヲ海邊ニ撰ムノ必要アルヲ以テ東京市深川區越中島ニ其位置ヲ定メ同年四月新營ニ着手セシカ土地埋立ノ必要アリシヲ以テ工事ノ進捗甚タ遅ク翌三十五年三月即チ滿四年ニシテ完成セリ敷地面積ハ一萬四百三十二坪餘ニシテ内繋船場壹千九百貳坪餘アリ家屋ノ總坪數ハ貳千五百九十五坪餘ニシテ教室、寄宿舎其他ノ配置、實驗室、實習場ニ於ケル設備ハ大要左ノ如シ

一、 齋 舎

本所ノ建築ハ勉メテ外形ノ修飾ヲ避ケ實用ト堅牢トニ重キヲ置キ通風採光ニ留意セシハ勿論教室ノ配置、教具及實驗並ニ實習器具機械ノ排列等ニ於テモ事業ノ狀態ト教育及衛生上ノ論理トニ基キ之ヲ計營セリ

本館ハ二階建ニシテ教室、事務室、講堂ノ三ヨリ成リ教室ハ一室能ク六十人ヲ容ル、コトヲ得其數十四室アリ其他物理、化學ノ特別教室ヲ有シ又其一部ヲ標本室、圖書室、準基機械室等ニ充テ別ニ土中室ニテ所ヲ有シ標本ノ一部並ニ器具ヲ藏ム講堂ハ面積七十七坪ニシテ 聖影奉掲ノ裝置ヲナス各室ニハ暖房放熱器ヲ備ヘ冬季ト雖モ常ニ一定ノ溫度ヲ保タシムルノ裝置トナス

中央ノ一棟ハ平家造ニシテ實驗室ニ充ツ其半部ハ養殖並ニ細菌學ニ關スル實驗及實習ニ供シ他ノ半部ハ製造化學、分析化學及化學實驗室トシ各瓦斯、水道水ヲ引用シテ其作業ニ便ナラシム

實習場ハ平家造ニシテ漁撈製造ノ二ニ分チ其一部ヲ漁撈實習室ニ充テ網具、釣具、船具等ノ設計製作修補ノ場所トナシ他ノ一部ヲ製造ノ實習室トシ沃度、製鹽、油蠟、罐詰及汽罐室トシ煮熟、煎熬等溫熱ヲ要スルモノハ汽罐中ノ蒸氣ノ供給ニヨリ動力ヲ要スルモノハ汽關室ニ於テ發生セシムル電氣ヲ用ヒ又瓦斯水道水ノ供給ニヨリテ其作業ニ便ナラシム又別ニ第五回内國勸業博覽會ニ在リシ冷蔵庫ヲ移築シテ魚肉冷蔵ノ方法ヲ實習セシムル所トス

寄宿舎ハ二階建ニシテ自修室ト寢室トヲ兼ネ室ノ一部ヲ自修ニ他ノ一部ヲ寢臺ニ

充ツ寢臺ハ床面上二尺五寸ノ高サニシテ上ニ藁布圍ヲ敷キ下ヲ用具入トナシ前面ニ戸ヲ設ケ各自鍵ヲ用ヒテ閉鎖スルコトヲ得セシム又自修ノ爲メニハ中央ニ二人向合ノ卓子三個ヲ并列シ其側面ニ書籍ヲ容ル可キ棚ヲ設ケ一室六人ヲ定員トス外ニ一ノ會堂ヲ設ケ生徒ノ集會ニ便ニシ又學友會圖書室ヲ本舍内ニ設ク各室ニ暖房及電燈ヲ配置シ水道水ヲ引用ス其他攝養室、小使室、洗面所、食堂、浴室等ヲ設ケ浴室ニハ汽罐ヨリ蒸氣ヲ引用シテ日中作業ニ使用セシ蒸氣ノ餘熱ヲ供給セリ

繫船場ハ敷地ノ一隅ヲ區劃シ水開ヲ設ケテ外海トノ交通ヲ遮リ練習用ノ端艇及漁艇ヲ繫留スル所トナス

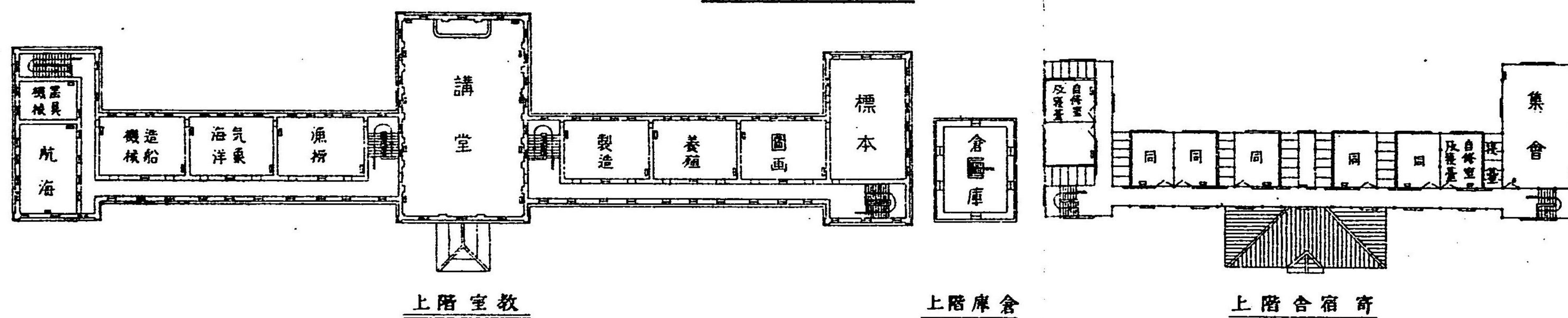
運動場ハ寄宿舎ノ前面一千五百七十五坪餘ノ面積ヲ以テ之ニ充テ砂礫ヲ以テ地盛ヲナシ雨水ノ溜滯スルコトナカラシム場内ニハ陸上橋、鞦韆、震動横木、柵、鐵棒、高手摺等ヲ設ケテ本所、學生ニ必要ナル特殊ノ運動ヲナサシム

暖房ハ米國「ウエフスタ」式ヲ採用シ各室ニ設備セル放熱機ニヨリテ室内ヲ暖メ「ポンプ」ノ作用ニヨリテ凝結水ヲ回收スルノ趣向トシニケ所ノ汽罐ニヨリ一ハ教室及實驗室等主トシテ晝間使用スル場所ニ温熱ヲ供給シ其汽罐室ヲ本館ノ中央ニ設ク

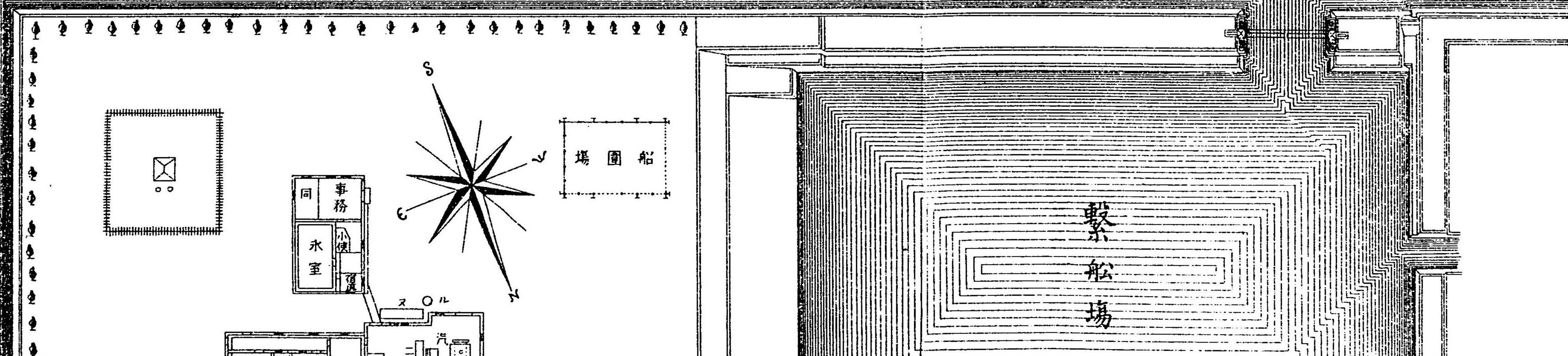
水產講習所

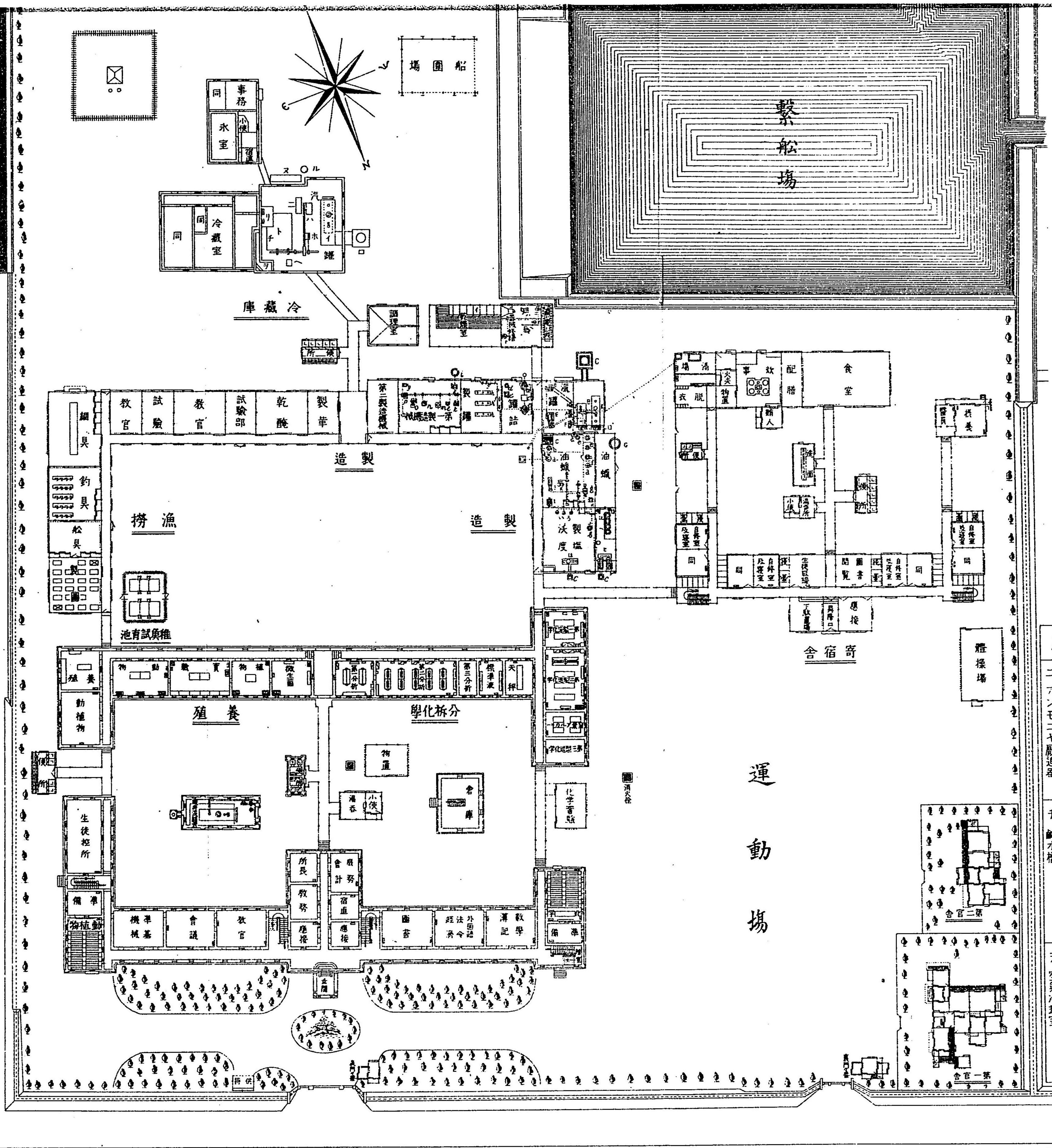
本所

縮尺八百分之壹



構內	壹万四百三拾二坪五
內 敷 場	壹千九百七拾二坪三
建 物	貳千五百九拾五坪五
總 坪	





KJIHGFEDCBA
 各種機器器具
 各種材料
 各種試薬
 各種燃料
 各種油類
 各種酸類
 各種塩類
 各種糖類
 各種蛋白質
 各種核酸
 各種酵素
 各種抗体
 各種疫苗
 各種血清
 各種組織液
 各種培養液
 各種培养基
 各種指示剂
 各種染料
 各種试剂
 各種标准品
 各種对照品
 各種对照液
 各種对照管
 各種对照孔
 各種对照板
 各種对照架
 各種对照箱
 各種对照柜
 各種对照室
 各種对照台
 各種对照凳
 各種对照椅
 各種对照桌
 各種对照架
 各種对照箱
 各種对照柜
 各種对照室
 各種对照台
 各種对照凳
 各種对照椅
 各種对照桌

庫藏冷	
イ 汽罐	ホ 揚水ポンプ
ロ 煙突	ヘ 鹹水ポンプ
ハ 汽機	ト 製水槽
ニ アンモニア駆迫器	チ 鹹水槽
	リ 鹹水加減弁
	ヌ アンモニア凝縮機
	ル 井戸
	ヲ 空気が冷却室

一ハ夜間使用セル寄宿舎ニ供給スルモノニシテ晝間ノ實習ニ使用シタル蒸氣ノ餘カヲ以テ之ヲ供給ス

電燈及ヒ原動力ハ製造ノ作業ニ要スル蒸氣、殺菌、温熱ノ供給及暖房等ノ爲メ使用セル汽罐ノ蒸氣ニヨリテ同一ノ汽罐室ニ備ヘタル發電機ヲ回轉シ又更ニ蓄電池ヲ設ケテ常ニ電氣ヲ蓄ヘ置キ以テ寄宿舎及其他ノ點燈ニ供シ又機械運轉ノ原動力トシテ隨所ニ其動力ヲ應用シ又將來電氣ノ作用ニヨリテ成功スヘキ漂白分解等ノ事業ニモ應用センコトヲ期ス故ニ蒸氣及ヒ電氣ハ極メテ經濟的ニ之ヲ使用セリ

構内ノ植樹ハ其場所ニ依リ風防、火防、日除、波除等ノ目的ヲ以テ最モ海風ニ堪ユルモノ又ハ堤防ノ堅固ヲ補クルモノ等ヲ撰ビタリ故ニ一樹一卉ト雖モ苟モ植ヘタルモノナシ

二、實習ニ關スル設備

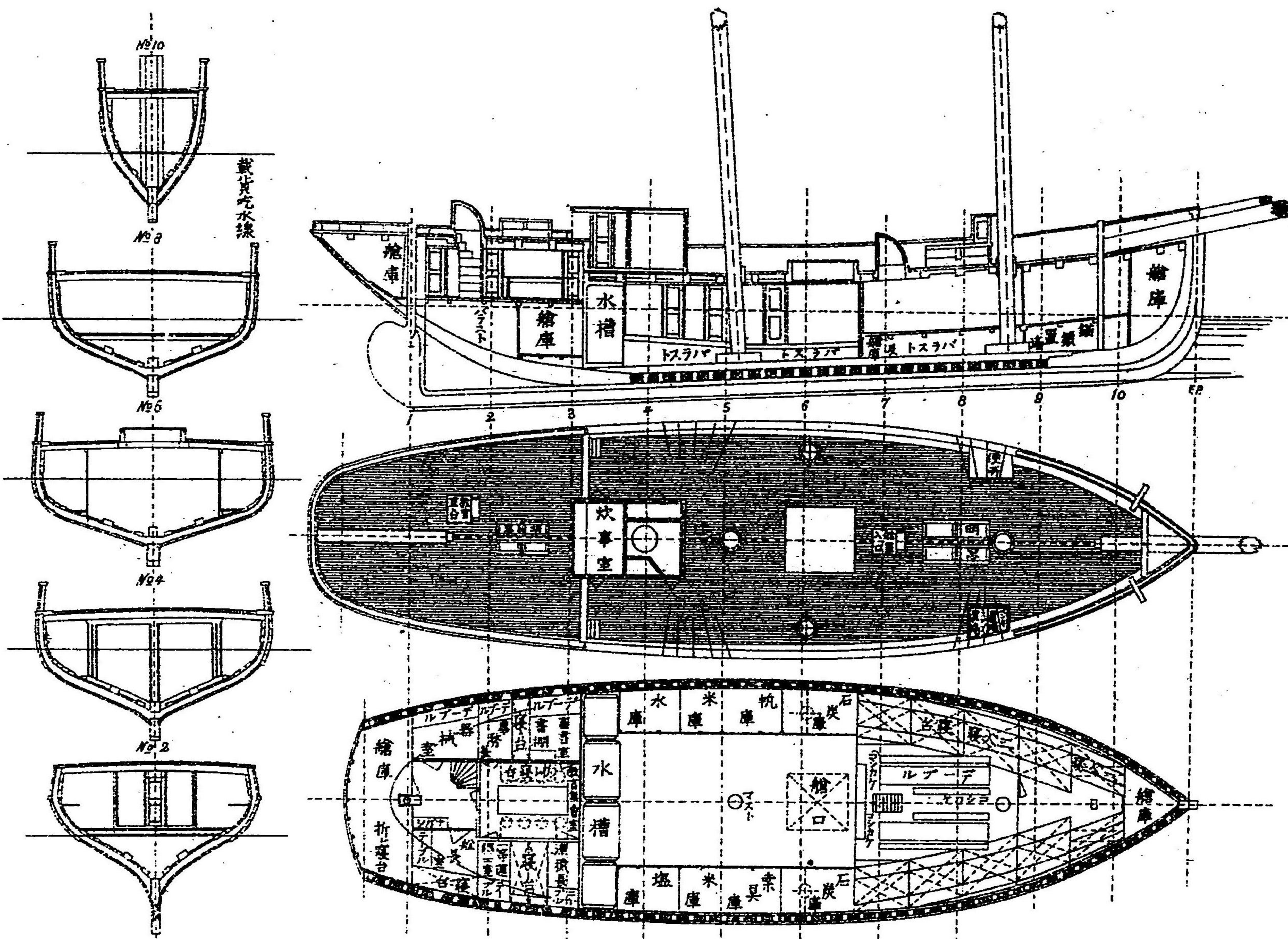
本所ハ其業態ニ依リ東京ニ於テノミ實習セシムヘカラサルモノ多キヲ以テ各科其目的ノ異ナルニ從ヒ特殊ノ設備ヲセリ

(一) 漁撈科

實業ニ關スル設備 漁撈科

丸鷹快船習實

定尺=20吋ハ1呎



船體		総噸數
深	幅	長
九尺貳寸五分	貳拾四尺	九拾壹尺五寸
		壹百三十七噸 六六

漁撈科ニ於テハ明治三十三年四月實習用帆船ノ建造ニ着手シ翌年四月其工ヲ竣ヘ快鷹丸ト命名ス爾來漁撈科ノ生徒ヲ搭乘シテ實習ニ従事セシノ千葉縣安房郡館山ヲ定繫港トナシ陸上ニハ漁撈假實習場ヲ設ケ一般ノ漁具船具等ヲ備ヘ氣象觀測漁具船具等ノ製作設計及ヒ修理等ノ實習ヲナサシム

快鷹丸

本船ハ本所生徒漁撈實習ノ目的ニヨリテ建造シタル「スクーター」形帆船ニシテ總噸數百三十七噸六六登簿噸數百二十九噸四〇、長ヲ九十三呎六吋、幅二十五呎六吋、深ヲ九呎五吋係數四、五速力凡十二哩半ニシテ其構造ハ各種ノ漁獵ニ適應セシメ且學習ニ便ナラシムルガ爲メ内外國漁船ノ長所ヲ採リ各種ノ經驗ヲ參酌シテ先ツ速力ヲ迅速ナラシムルカ爲メ船體ノ下部ヲ尖銳ニシ且動搖ヲ輕減スルノ方法ヲ採レリ船室ヲ甲板下ニ設ケ甲板上ヲ廣クシテ操業ノ便ヲ計リ艙ヲ教官室、測量器室、圖書室、火藥室トシ艙ヲ水夫室、學生室、實驗室トシ中央部ヲ艙庫トナシ之ヲ食料庫、食鹽庫、帆庫、船具庫、石炭庫、漁具庫、氷室、雜品庫及漁獲物貯藏庫ニ分チ其他食料水廿六噸ヲ貯藏スルコトヲ得ルノ構造トシ漁艇並ニ漁具ノ揚卸ヲ容易ナラシムル爲メ船舷ヲ低クシテ

ンブレート」ヲ内側ニ取付ケタリ、復原力ヲ強クシテ遠洋ノ航海ニ堪ヘシメンカ爲メ
 船幅ヲ廣クシ時化ヲ凌キ操船ニ便センカ爲メ操舵機ヲ「スクリユ一、ステアリング、ギ
 ア」トナシ「シートトラベラー」三「ベータント、バツフア一」ヲ取付テ「ブーム」轉替ノ際ニ
 起ル「ブーム」ノ破損ヲ豫防シ「ダイアゴナル、アイオンプレート」九對ヲ取附ケテ船體ノ
 堅牢ヲ計レリ

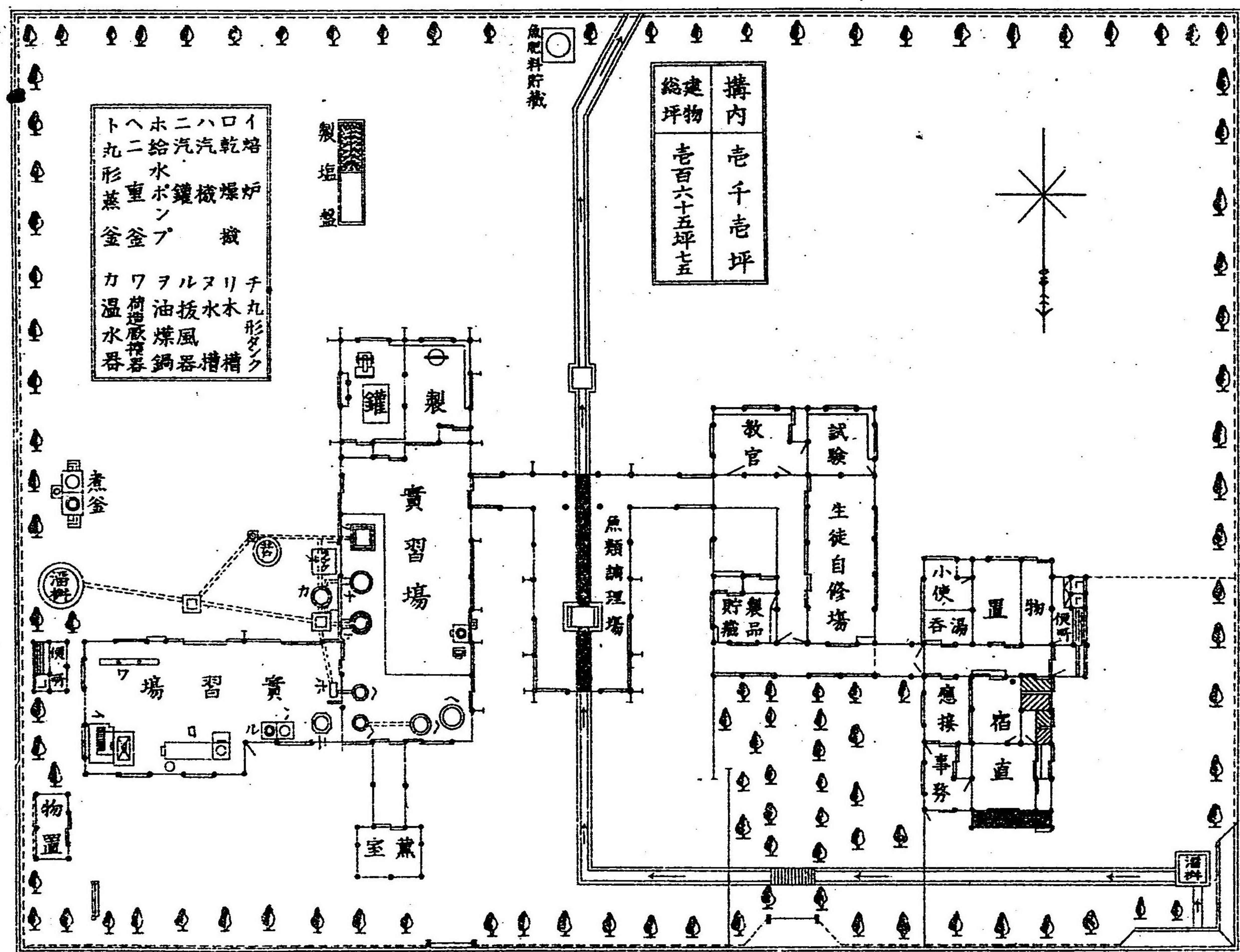
其全體ノ形態及構造ハ凡左ノ如シ

形態

- 一 甲板層數 一層
- 一 外板ノ材料 木
- 一 船骨ノ材料 木
- 一 檣ノ數 二本
- 一 網具ノ裝置 スク一ナー
- 一 船首ノ形狀 斜形
- 一 船尾ノ形狀 橢圓形

製造科 養殖科

小田原製鐵實習場



- 尺 度
- 一 船舶積量測度方法ニ依ル量噸甲板下ノ長サ九十一尺五寸
 - 一 船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅二十四尺
 - 一 内張板ノ上面マテノ深サ九尺二寸五分
- 積 量
- 一 總噸數 百三十七噸六六
 - 一 登簿噸數 百二十九噸四〇

(二) 製造科

製造科ニ於テハ本所ニ於テ應用化學細菌學等ト相待テ學理上ノ教授ヲナスト雖モ東京ニ於テハ魚價ノ不廉ナルノミナラズ適當ナル製造原料ヲ得ルコト能ハサルヲ以テ技術ヲ練熟セシムル爲メ他ニ現業ノ實習場ヲ設ク

小田原製鐵實習場

小田原製鐵實習場ハ神奈川縣下小田原町ニ設ク一定ノ期間學生ヲ同所ニ出張セシメテ技術練習ノ傍自ラ經濟ノ途ニ當リ或ハ事業設計ノ任ニ當ラシメ又其設備ノ程度モ

民間現時ノ度合ニ適合セシメントヲ圖リ機械ノ動力ハ手働ヲ主トシ汽力ハ一個ノ豎立汽罐ヲ備フ水ノ供給ハ必用ナルヲ以テ構内ニ流水ヲ引キ魚類其他ノ洗濯ニ便ニセリ本場ハ明治三十四年四月起工シ同年八月竣工セリ

(三) 養殖科

養殖科ニ於テハ各種水族ノ性質各相異ナルヲ以テ一個ノ實習場ヲ以テ満足スルコト能ハス故ニ本所ニ於テハ各實習場ニテ採集シタル材料ヲ用ヒテ教授ヲナスヲ主眼トシテ尙ホ各實習場ニ於テ實地ノ研究技術ノ練習ヲナサシム

實習場

淡水養殖ニハ東京市深川區冬木町養魚實習場ニ於テ鯉、鰻、鱈等ヲ府下北多摩郡宮澤假實習場ニ於テ鮎ヲ栃木縣日光中宮祠湖假實習場ニ於テ鱒ノ養殖ニ就キテ實習セシメ實地見聞ノ爲メ時々生徒ヲ北海道新潟縣下等ノ地方ニ派遣セシムルコトアリ
淺海ノ養殖ニハ品川灣ニ於テ海苔、千葉縣八幡ニ於テ牡蠣、其他貝類養殖上ノ實習ヲナサシムト雖モ實地見聞ノ爲メ時々生徒ヲ廣島、岡山其他ノ地方ニ派遣スルコトアリ

洋海性ノ魚類及ヒ藻類ニ關シテハ房州白濱ニ於テ比目魚、龍鰻、搗布、若布等ニ就キテ其生理、發生、蕃殖、人工孵化等ノ實驗ヲナサシム又千葉縣下鷹ノ島及沖ノ島ヲ本所ノ所轄トセシヲ以テ將來同所ニ於テモ亦蕃殖上ノ實習場ヲ開設センコトヲ期セリ

第四章 實習

一、本所實習

第二學年漁撈科ニ於テハ網具及釣具ノ構成、漁船ボート運用等製造科ニ於テハ食用品工用品、藥用品ノ製造及定性定量分析、蕃殖科ニ於テハ解剖及發生學實驗、海苔及貝類蕃殖等ノ實習ヲナサシム

二、所外實習

第三學年ニ於テハ本所實習ノ外技術ヲ練磨セシムルタメ別ニ實習場ヲ設ケ練習セシメタル科目左ノ如シ

漁撈科

假實習場 千葉縣下館山町

實習船 快鷹丸

實習科目

一 網具構成(製作、製圖、設計)

一 釣具構成(製作)

一 漁船及ボート運用

一 網漁。流網、刺網、揚操網、棒受網、手操網、打瀬網等

一 釣魚。鮪、鯉、鯖、鰯、柔魚、鰻等(延繩手釣)

一 實習船快鷹丸ニ於テ左ノ實習ヲナス

運用法 航海術

網漁 鯉巾着網(土佐沖ヨリ三宅島沖合)

釣魚 浮延繩、底延繩(三宅島ヨリ土佐沖合)

捕鯨 (金華山沖合)

其他千葉縣下御宿ヨリ銚子地方沿岸ニ於テ漁撈ニ關スル實地ノ指導ナセリ

一 氣象觀測

一 魚場調査

所外實習

一 漁業經營

製造科

實習場 神奈川縣下小田原町

實習科目

- 一 食用品(罐詰、乾製品、薰製、節類、鹽藏魚、海苔、混和品、酢漬、醃醬品等)
 - 一 肥料(榨粕、乾鰯、荒粕、骨粉、肥料等)
 - 一 工用品(魚油、魚蠟、膠材料ノ採集、海獸皮採集)
 - 一 藥用品(沃度、肝油類)
- 其他千葉縣津田沼實習場ニ於テ製鹽、愛知縣下中山及篠島ニ於テ肥料及鰵油漬
罐詰法ノ實習、長野縣下ニ於テ凍瓊脂製造法、神奈川縣橫濱魚油會社ニ於テ魚油
蠟ニ關スル事項ノ實地指導ヲナセリ

一 製造事業經營

養殖科

實習場

東京市深川區冬木町(人造池ニ於ケル養殖)
 埼玉縣下三田ヶ谷(同上)
 栃木縣下日光中宮湖(人工孵化)
 神奈川縣下保土ヶ谷(鹹水池ニ於ケル養殖)
 千葉縣下八幡町(淺海ニ於ケル養殖)

實習科目

- 一 淡水養殖(鮭、鱒、鮎、鯉、金魚、鰻、鰻等)
 - 一 鹹水養殖(鱒、牡蠣、海苔等)
 - 一 發生學實驗、解剖實驗
- 其他廣島縣下及千葉縣下ニ於テ養蠟法、新潟縣下ニ於テ鮭人工孵化法、府下多
 摩川ニ於テ鮎人工孵化法、千葉縣下白濱村ニ於テ比目魚人工孵化法并ニ淺草
 海苔移植、搗布、和布ノ繁殖方法等ノ實地指導ヲナシ且東京附近ノ養魚場ニ就
 キ實地ノ視察調査ヲナサシメタリ

一 養殖事業經營

所外實習 氣象觀測

三、氣象觀測

氣象ノ觀測ハ水産上最モ必要ナルヲ以テ本所ニ於テハ之レガ學理ヲ授ケ併セテ氣象ノ觀測法ヲ習熟セシム其實習科目左ノ如シ

- 一 氣壓ノ變化
- 一 溫度ノ變化
- 一 雨量及蒸發
- 一 空氣ノ濕度
- 一 風力及風向
- 一 雲形及雲量
- 一 日照時
- 一 天氣豫測

第五章 生徒

一、在學生徒姓名 (明治三十八年六月現在)

本科 (百十五名)

漁撈科 (四十六名)

第三學年 (十三名)

村上 素 宮城士族	川口 錄 一 岐阜士族
林田 甚 八 長崎平民	南 部 寬 福井士族
上枝 平五郎 香川平民	川 添 友 志 鹿兒島平民
福井 千代馬 高知士族	伊 藤 藤 朗 愛知平民
久保 雷之助 愛媛平民	堀 江 英 一 廣島平民
山根 左 中 島根平民	木 暮 彌 七 群馬平民
水間 春 吉 德島士族	
中村 源 一郎 鹿兒島平民	尾 上 平 藏 鹿兒島平民

在學生徒姓名

芳賀奈七郎	柳悅多	杉浦保吉	田中登	河野光三	鎌田武造	奥津與美	登坂高三	三上守二	國司浩助	熊田頭四郎	小川幸之進	村山吉助
岩手平民	東京士族	埼玉士族	三重平民	山口平民	青森平民	群馬士族	山形士族	廣島平民	山口士族	栃木平民	岡山平民	山形士族

第一學年 (十六名)

橘川章	和田美穗	笠松彌一	野間口兼美	東郷保一	山田純太郎	榎本彈正	秦半兵衛	木津和秀男	長友寬	村岡貫一	安達誠三
宮城士族	宮崎平民	東京平民	鹿兒島士族	宮城平民	東京平民	香川平民	東京平民	廣島平民	宮崎士族	山口平民	石川士族

六十四

製造科 (五十七名)
第三學年 (十七名)

川島信一	小崎彰	長田景貞	國島徹	牧野健次郎	長屋熊槌	木村金太郎	武季作	栗屋協二	馬場清止	安永宗治	伊東二郎
廣島平民	宮城士族	鹿兒島士族	北海道士族	靜岡平民	廣島平民	東京士族	東京士族	愛知士族	宮城士族	福岡平民	茨城平民

在學生徒姓名

秋山實	池野仲藏	中北靜	鈴木幸太郎	林祿郎	江島悅次郎	松坂省輔	宇加治文雄	河西延次郎	杉山恒吉	益滿行綱
千葉平民	靜岡平民	岐阜平民	靜岡平民	大坂平民	福岡士族	山口平民	茨城平民	香川平民	德島士族	東京士族

六十五

第二學年 (二十名)

高崎達之助	大坂平民
柴田匡一	岐阜士族
池内清	愛媛士族
篠原陸造	島根平民
大槻清三	東京平民
宗像浩次郎	廣島平民
赤坂仁三郎	北海道平民
内田耕	東京平民
仲野九郎	兵庫平民
岩井龜治	高知平民
谷兵三郎	德島平民
諸賀陸次郎	愛媛平民

第一學年 (二十名)

中村平	福岡平民
三森富雄	福岡平民
福島政吉	東京士族
久志本欣之助	三重平民
上田壯一	山口平民
立川卓逸	新潟士族
中山克巳	高知平民
喜代美榮一郎	長崎士族
名村竹雄	福井士族
山内豊彦	茨城士族
寺島彌壽彦	岡山士族
杉村泰治	宮城士族

養殖科 (十二名)

第三學年 (三名)

林隆義	東京士族
中村末次郎	鹿兒島平民
市川清	東京士族
中島董一郎	東京平民
北圃福次郎	和歌山平民
里深清一	兵庫平民
岡本剛三	東京平民
山中巖	廣島平民

第二學年 (五名)

西山伊六	佐賀士族
東道太郎	東京士族
萩原實治	兵庫平民
吉野孝	長野士族
種谷六三	埼玉平民
島崎眞哉	高知士族
野口莊次	埼玉平民
永峰治光	北海道士族
梅宮鶴藏	福島平民
佐々田榮重	島根平民
間世田名臣	鹿兒島士族

第一學年 (三名)

平木治	福岡平民
鐘夕江東作	佐賀士族

前田 峯 治 山形士族
井上 惠 吉 東京士族

加藤 次 一 廣島平民

西村 茂 生 山口平民
德久 三種 山口平民

谷口 利 三 郎 廣島平民

八幡 光 造 山形平民

遠洋漁業科 (九名)

第三學年 (四名)

在米ゲーヘッド號乘組(捕鯨)

田中 仁 吉 島根平民

在米ゲーヘッド號乘組(捕鯨)

長内 泰 助 岩手士族

海光丸乘組トロール(漁業)

佐藤 正 孝 山形平民

出征

松田 林 宮崎士族

第二學年 (二名)

第二房總丸乘組(臘肉獸獵)

黒木 圓 太 福岡平民

第一學年 (四名)

ニコライ丸乘組(捕鯨)

小松 重 利 高知平民

研究科 (六名)

漁撈科 (三名)

明治三十四年一月入學

鯉巾着網構成

吉永 貴 八 郎 長崎士族

流網漁業ニ就テ

渡邊 理 一 東京華族

製造科 (二名)

明治三十四年五月入學

罐詰内容物ノ變化ニ就テ

小野 寺 克 彦 宮城平民

明治三十五年四月入學

罐詰内容物ノ化學的變化

岩城 宜 郎 靜岡平民

養殖科 (二名)

在學生徒姓名

明治三十三年四月入學
 肥後了 一 鹿兒島士族
 明治三十七年七月入學
 九川久俊 島根士族
 淡水養魚上天然餌料
 鯉魚餌料ニ就テ

一、在學生徒府縣別
 在學生徒府縣別及學年一覽表 (明治三十八年六月現在)

海	東	府	種	道			本	科	種
				別	種	別			
東	神	靜	愛	三	和	學	漁	道	和
京	奈	岡	知	重	歌	年	撈	府	山
	川				山	一	科	縣	
						二	製		
						三	造		
						學	科		
						年	養		
						一	殖		
						二	科		
						三	計		
						士	合		
						平	計		
						計	漁		
							業		
							科		
							研		
							現		
							計		
							總		
							計		

內	區					區								
	山	秋	新	石	富	福	京	鳥	島	青	岩	宮	福	茨
山	田	山	石	富	福	京	鳥	島	青	岩	宮	福	茨	千
大	形	川	山	井	都	取	根	森	手	城	島	城	葉	
分														
-														
-														
-														
-														
-														
-														
-														
-														
六														
七														
-														
六														
七														

在學生徒府縣別

在學生徒年齡

本科

三、在學生徒年齡表

(明治三十八年六月調)

合計	國外	區					
		韓	長	岐	滋	山	奈
	國	野	阜	賀	梨	良	木
一六	六一〇	1					
一七	五一三	1					
一八	五一						
一九	一八						
二〇	一八						
二一	七一三						
二二	七一三						
二三	八						
二四	一四						
二五	三						
二六	二						
二七	二						
二八	一四五七〇						
二九	一五						
三〇	三						
三一	一						
三二	一						
三三	二						
三四	二						
三五	四一						
三六	三						
三七	三						
三八	一						
三九	五七七						
四〇	一						
四一	一						
四二	一						
四三	五七七						
四四	一						
四五	一						
四六	一						
四七	一						
四八	一						
四九	一						
五〇	一						
五一	一						
五二	一						
五三	一						
五四	一						
五五	一						
五六	一						
五七	一						
五八	一						
五九	一						
六〇	一						

埼玉	海東區北	區海						區海								
		德島	高知	宮崎	沖繩	鹿兒本	熊賀	佐賀	長崎	福岡	大	兵	香	岡	廣	愛
一	1															
二	1															
三	1															
四	1															
五	1															
六	1															
七	1															
八	1															
九	1															
一〇	1															
一一	1															
一二	1															
一三	1															
一四	1															
一五	1															
一六	1															
一七	1															
一八	1															
一九	1															
二〇	1															
二一	1															
二二	1															
二三	1															
二四	1															
二五	1															
二六	1															
二七	1															
二八	1															
二九	1															
三〇	1															
三一	1															
三二	1															
三三	1															
三四	1															
三五	1															
三六	1															
三七	1															
三八	1															
三九	1															
四〇	1															
四一	1															
四二	1															
四三	1															
四四	1															
四五	1															
四六	1															
四七	1															
四八	1															
四九	1															
五〇	1															
五一	1															
五二	1															
五三	1															
五四	1															
五五	1															
五六	1															
五七	1															
五八	1															
五九	1															
六〇	1															
六一	1															
六二	1															
六三	1															
六四	1															
六五	1															
六六	1															
六七	1															
六八	1															
六九	1															
七〇	1															
七一	1															
七二	1															
七三	1															
七四	1															
七五	1															
七六	1															
七七	1															
七八	1															
七九	1															
八〇	1															
八一	1															
八二	1															
八三	1															
八四	1															
八五	1															
八六	1															
八七	1															
八八	1															
八九	1															
九〇	1															
九一	1															
九二	1															
九三	1															
九四	1															
九五	1															
九六	1															
九七	1															
九八	1															
九九	1															
一〇〇	1															

學年	學別	最高年齡	最低年齡	平均年齡
第一學年	漁撈科 製造成科 養殖科	二七、五月	一八、六月	二六、〇〇、〇
第二學年	漁撈科 製造成科 養殖科	二四、五月	一九、八月	二一、五、四
第三學年	漁撈科 製造成科 養殖科	二二、四月	一八、二月	二〇、八、七
		二六、九	一九、七	二二、四、八
		二六、〇	一九、五	二二、三、七
		二四、四	一八、二	二一、〇、〇

遠洋漁業科

學年	學別	最高年齡	最低年齡	平均年齡
第一學年	漁撈科	二五、七月	一三、四月	二四、九、二
第二學年	漁撈科	二五、一〇	一五、一〇	二五、一〇、〇
第三學年	漁撈科	二六、七月	一四、一〇	二五、九、七

研究科

最高年齡	最低年齡	平均年齡
二六、七月	二二、一月	二五、一月

四、遠洋漁業科生乘般表

(明治三十八年六月調)

姓名	乘組船名	漁業ノ目的	航海船質	網具	長	總噸數	登簿噸數	製造年月	定繫港	船主
田中仁吉	デーヘッド	捕鯨	北海	スクーナ	一〇四尺	一五三噸	八二八噸	三十七年	米國桑港	坂與田龜浩
長内泰助	全	捕鯨	北海	スクーナ	九二尺	一〇四噸	八五、五八	三十八年	全	山房總遠洋漁業株式會社
佐藤正孝	海光丸	漁	北海	スクーナ	九二尺	一〇四噸	八五、五八	三十八年	全	坂與田龜浩
黒木圓太	第二房總丸	漁	北海	スクーナ	九二尺	一〇四噸	八五、五八	三十八年	全	山房總遠洋漁業株式會社
小松重利	ニコライ丸	捕鯨	北海	スクーナ	九二尺	一〇四噸	八五、五八	三十八年	全	山房總遠洋漁業株式會社
美代清信	北水丸	漁	北海	スクーナ	九二尺	一〇四噸	八五、五八	三十八年	全	山房總遠洋漁業株式會社
寛多記	北水丸	漁	北海	スクーナ	九二尺	一〇四噸	八五、五八	三十八年	全	山房總遠洋漁業株式會社

五、卒業生及其就職

(○ハ優等卒業●ハ死亡者) (明治三十八年六月調)

(一) 本科 (二百十名)

卒業生及其就職

漁撈科 (七十二名)

○明治三十一年四月卒業(十三名)

- 岡山縣水產試驗場技手
- 自家營業
- 出征
- 宮城縣牡鹿郡水產學校教諭
- 海外實業練習生(在那威)
- 出征
- 陸軍通譯官(大坂高石)
- 出征(豊前笹尾砲臺)
- 海外實業練習生(在米國)
- 朝鮮海水產組合
- 富山縣水產講習所技手
- 臺灣澎湖島測候所主任

- | | | |
|----|-----|------|
| 家入 | 四直 | 福岡士族 |
| 橋本 | 猪太郎 | 能本平民 |
| 加藤 | 勢三 | 三重平民 |
| 龜井 | 小市 | 山口平民 |
| 南摩 | 紀麿 | 東京士族 |
| 長友 | 茂三郎 | 宮崎士族 |
| 村田 | 乙三郎 | 東京士族 |
| 內田 | 治三郎 | 山口平民 |
| 武藤 | 禮二 | 宮崎士族 |
| 福田 | 久橋 | 島崎士族 |
| 木村 | 廣三郎 | 石川士族 |
| 庄司 | 與一郎 | 石川平民 |

自家營業 (茨城縣新治郡佐賀村)
志戸崎水產製造所

菅谷毅 茨城平民

金盛丸乘組

石野敬之 千葉平民

朝鮮海水產組合(元山支部)

大庭弘雅 福岡平民

山口縣大津郡水產巡廻教師

大谷正猛 高知士族

自家營業(遠洋漁船安全丸營業主)

高橋瀏二 岡山平民

自家營業

山下節治 長崎平民

宮城縣技手

矢野新吉郎 熊本士族

鹿兒島縣水產試驗場技手

松崎彌一 鹿兒島平民

千葉縣技手

古田正知 岐阜士族

學生(法科大學)

小林音八 新潟平民

山口縣水產試驗場技手

○坂本庄太郎 佐賀平民

自家營業(製網業)

佐々木一郎 廣島平民

山口縣豊浦郡水產巡廻教師

宮下知一 東京平民

卒業生及其就職

北海道岩内支廳技手
朝鮮海水産組合(木浦支部)
出征

○明治三十三年四月卒業(十二名)

研究科在學

遠洋漁業科在學(米國捕鯨船デーベット號乘組)
出征

香川縣水産試驗場技手

米國留學

三重縣南牟婁郡水産巡廻教師

遠洋漁業科在學(出征)

在米(鱈漁業船乘組)

宮崎縣水産試驗場技手

出征

下國 沖助 北海道士族
樋口 律太郎 長崎平民
茂又 忠三 秋田士族

吉永 貴八郎 長崎士族

田中 仁吉 島根平民

田谷 英 石川平民

津田 美津彦 福岡士族

○中村 嘉壽 鹿兒島平民

久保 澤董 青森士族

松田 林 宮崎士族

小金丸 増次郎 福岡平民

小島 才一 神奈川平民

小木原 元吉 鹿兒島士族

出征

茨城縣水産試驗場技手

○明治三十四年四月卒業(八名)

新潟縣西頸城郡水産學校教諭

北海道水産試驗場手

遠洋漁業科在學(米國捕鯨船デーベット號乘組)

兵役

三重遠洋漁業株式會社(三重丸乘組)

千葉遠洋漁業株式會社(大島丸乘組)

靜岡縣加茂郡水産組合

和歌山縣水産試驗場技手

○明治三十五年四月卒業(五名)

秋田縣水産試驗場技手

高知縣水産試驗場技手

卒業生及其就職

森 藏助 鹿兒島士族

須田 正治 山形平民

石川 伸治 石川士族

○木間 平八 山形平民

長内 泰助 岩手士族

大川 辰藏 兵庫平民

松尾 秀夫 長崎士族

前田 春水 宮城平民

荒 卯忠 福島士族

喜多山 昇來 愛媛士族

額田 喜一 香川平民

小島 省吾 石川士族

遠洋漁業科在學(海光丸乘組)

遠洋漁業練習生(在英國)

石川縣水產試驗場技手

○明治三十六年七月卒業(七名)

北海道廳技手

在暹羅

福井縣水產學校教諭

遠洋漁業科在學(第二房總丸乘組)

水產講習所助手

沖繩縣糸滿水產學校教諭

千葉縣水產試驗場技手

○明治三十七年七月卒業(十二名)

愛知縣水產試驗場技手

兵庫縣飾磨郡水產巡廻教師

佐藤 正孝 山形平民

日高 靖 宮崎平民

元木 淑人 德島平民

稻見 彌一郎 北海道平民

岩田 雄 京都平民

内田 四郎七 福井平民

黒木 圓太 福岡平民

山田 廣次 福岡平民

宮田 光 京都平民

關根 磯吉 東京平民

堀 宏 新潟士族

渡邊 定助 愛知士族

研究科在學

遠洋漁業科在學(北水丸乘組)

自家營業

遠洋漁業科在學(在大連)

茨城縣大津水產學校教諭

山口縣技手

陸軍糧秣廠(在滿洲)

遠洋漁業科在學(にこらい丸乘組)

遠洋漁業科在學(北水丸乘組)

宮城縣本吉郡水產學校教諭

製造科 (百〇四名)

○明治三十一年四月卒業(三十四名)

小田原魚商組合罐詰製造所技師

三井物産會社

卒業生及其就職

渡邊 理一 東京華族

篁 多記 茨城士族

田中 榮定 長崎士族

中島 昌二 廣島士族

中島 秀男 島根士族

長井 貫吾 新潟平民

山岸 留之助 北海道平民

小松 重利 高知平民

美代 清信 鹿兒島士族

杉江 鎌治 石川士族

今井 次郎 神奈川平民

長谷川 作次 石川平民

宮崎縣水產試驗場技手
 香川縣水產試驗場製鹽所技手
 自家營業
 秋田縣技手
 千葉縣船形罐詰製造所技師
 水產講習所技手
 韓國釜山罐詰會社技師
 臺灣臺南北門嶼專賣支局
 德島縣水產試驗場技手
 愛知縣水產試驗場技手
 在米國
 和歌山縣水產試驗場技手

濱元 四郎太郎 富山平民
 宮 常八 香川平民
 西 保 熊本士族
 堀江 銀之助 東京士族
 ●本郷 益雄 東京士族
 小倉 順三 千葉平民
 小野 辰次郎 東京士族
 大津 吉之介 茨城平民
 岡本 賢一 大分士族
 吉川 尙方 東京士族
 吉田 三俊 大坂士族
 ●高松 勝重 三重士族
 ●田所 清雄 茨城平民
 中西 秀男 三重士族

茨城縣新治郡菅谷罐詰製造所技師

自家營業

出征

自家營業

陸軍通譯

出征

高知縣水產試驗場技手

出征

岩手縣立水產學校教諭

出征

茨城縣水產試驗場技手

佐賀縣水產巡廻教師

宮崎縣水產試驗場技手

卒業生及其就職

中島 庸三 長野平民
 ●舊名和太郎 大和 和七 東京平民
 大和地 由太郎 千葉平民
 山本 廣三 大分士族
 ●舊姓佐藤 牧野 左馬三 大分平民
 前田 庄五郎 兵庫平民
 藤村 守一 高知士族
 松生 猪三男 福岡士族
 古賀 駿輔 佐賀士族
 駒澤 幸一 石川士族
 北川 克郎 高知士族
 木原 方吉 佐賀士族
 宮木 周市 山口平民
 ●三島 拙郎 根島士族

阪出鹽務局技手

在米國

出征

千葉縣水產試驗場技手

○明治三十二年四月卒業(二十二名)

臺灣打狗專賣支局

自家營業(鱈肝油製造)

出征

農商務省水產局

愛知縣知多郡水產巡廻教師

戰死

宮崎縣技手兼水產試驗技手

八十四

白石 靜

平野 友安

關原 東太

井關 正行

市橋 丁九

西堀 良造

富樫 恒

○小川 清一

大木 盛三郎

●辻 好司郎

○中村 平八

久浦 恒介

鹿兒島士族

千葉平民

大分平民

千葉平民

和歌山平民

東京華族

北海道平民

千葉士族

佐賀士族

東京士族

石川士族

德島平民

山口士族

香川縣水產試驗場製鹽所技手

在米國

石川縣水產試驗場技手

千葉縣鴨川水產補習學校教諭

青森縣水產試驗場技手

出征

水產講習所技手(出征)

長崎縣技手

自家營業

自家營業

○明治三十三年四月卒業(十五名)

卒業生及其就職

黑岡 安定

府 玻 健藏

府中 喜八郎

小石 季一

小岩 井治世

藍野 一男

佐々木 繁太郎

●北野 宇佐吉

●肝付 兼昌

光増 健三郎

●宮島 伊望

澁谷 源七

廣戶 勝藏

東京平民

石川平民

石川平民

秋田士族

青森士族

千葉平民

香川平民

德島平民

鹿兒島士族

佐賀士族

千葉平民

宮城平民

島根平民

八十五

在米國

山口縣柏島水產補習學校長

富山縣水產講習所技手

自家營業

富山縣下新川郡水產巡廻教師

出征

自家營業(海產物問屋)

自家營業(水產物販賣業)

千葉縣水產試驗場技手

未詳

在米國

出征

高知縣水產試驗場技手

舊姓長作

宮 弘

長崎士族

舊姓渡邊

伊藤 哲太郎

茨城平民

舊姓渡邊

濱田 直作

富山平民

大西 珍平

岩手平民

金高 喜一郎

千葉平民

吉田 虎藏

德島平民

舊姓大市

室伏 俊五郎

三重平民

浦山 伍作

石川平民

久保 茂助

山口平民

●久木田 勝馬

鹿兒島士族

久谷 歎一郎

島根平民

阿部 轍

宮城平民

齋藤 七郎

千葉平民

○水野 幸次郎

愛知平民

出征

○明治三十四年四月卒業(九名)

鹽田 愛隣

千葉平民

海外實業練習生(在獨逸)

研究科在學

在清國

水產講習所助教

岩手縣水產學校教諭

大藏省主稅局(技術課)技手

出征

○明治三十五年四月卒業(三名)

●池田 熊之助

鹿兒島士族

千葉 幸三郎

東京士族

舊名利吉

小野 寺克彦

宮城平民

中井 國太郎

愛媛平民

野元 俊一

鹿兒島士族

松原 榮

兵庫平民

船橋 晋吉

神奈川平民

●小見山 富市

熊本平民

朝比奈 雪

靜岡士族

出征

愛知縣日本罐詰製造所技師

岩城 宣郎

靜岡平民

中野 速吉

德島平民

卒業生及其就職

島根縣水産試験場技手

○明治三十六年七月卒業(十三名)

兵庫縣城崎郡但馬罐詰製造所技師

北海道水産試験場技手

出征

静岡縣水産巡廻教師

愛知縣水産試験場技手

大坂土井罐詰製造所技師

水産講習所助手

和歌山縣高井罐詰製造所技師

水産講習所助手

鹿兒島縣森罐詰製造所技師

久保田信治

兵庫平民

石原重良

山形士族

岩本正孝

長野士族

渡邊安忠

大分士族

●吉川秀之

石川士族

宗熊

大分士族

内村可一

德島平民

野田百人

熊本士族

松尾靈彦

愛知平民

淺井鎌吉

東京士族

酒井惣次郎

三重平民

菊地健

岩手士族

宮内友吉

鹿兒島平民

出征

○明治三十七年七月卒業(八名)

高知縣水産試験場技手

東京水産罐詰組合技師

静岡縣技手

千葉縣水産試験場技手

兵庫縣明石罐詰製造所技師

千葉縣銚子罐詰製所技師

静岡縣水産巡廻教師

在米國

養殖科 (三十四名)

○明治三十一年四月卒業(九名)

自家營業

自家營業

卒業生及其就職

吉村彦藏

山形士族

堀田嘉吉

岩手平民

河村尊雄

滋賀平民

鍋島能道

高知平民

松山秀雄

熊本士族

○安藤俊吉

兵庫平民

白石庸次郎

新潟士族

森萬次郎

東京平民

勢島莊太郎

福岡平民

●舊姓冬木

磯崎德次郎

千葉平民

●舊姓師部

西島新藏

山口士族

出征

熊本縣水產試驗場技手

陸軍糧秣廠

千葉縣水產試驗場技手(船橋養殖場)

岡山縣藤田組養殖部主任

戰死

農商務技手(尾ノ道水產實驗場)

○明治三十二年四月卒業(五名)

三重縣水產試驗場技手

自家營業

滋賀縣水產試驗場技手

日本銀行

廣島縣水產試驗場技手

○明治三十三年四月卒業(八名)

大石 芳三

佐賀士族

吉 川 諄

埼玉平民

高橋 重太郎

岩手平民

長 島 幸吉

千葉平民

藤 田 政勝

兵庫士族

●淺井 長三郎

福島平民

坂井 安三郎

佐賀平民

○川端 重五郎

三重平民

壁 谷 可也

東京平民

內山 龜五郎

福井平民

山 本 開作

神奈川平民

須 田 認

東京平民

○石田 五一郎

山口平民

○今野 虎吉

福島平民

伊 藤 俊治

千葉平民

緒方 茂十郎

大分士族

小野 佐久雄

東京士族

秋 山 永次

東京士族

肥 後 了一

鹿兒島士族

●櫻 田 廣吉

秋田士族

舊姓伊達

片 倉 健吉

東京華族

●長 島 八郎

神奈川平民

須 田 義二郎

山形士族

○明治三十五年四月卒業(三名)

德島縣水產試驗場技手

北海道水產試驗場技手(出征)

茨城縣水產試驗場技手
研究科在學

山口縣水產試驗場技手
愛知縣水產試驗場技手
山口縣吉敷郡水產巡廻教師
福井縣水產學校教諭

長崎縣水產試驗場技手

卒業生及其就職

○戶井 田 盛藏

新潟士族

自家營業

千葉縣水產試驗場技手

○明治三十六年七月卒業(四名)

内田佐太夫 千葉平民
前川鯉龜太郎 東京平民

出征

兵役

一年志願兵

河合 嚴 愛知平民
山下平造 兵庫平民

北海道水產試驗場技手(千歲支場)

○明治三十七年七月卒業(二名)

○越田德次郎 東京平民

研究科在學

高知水產試驗場技手

○九川久俊 島根士族
椎原廣男 鹿兒島士族

(二) 遠洋漁業科 (十五名)

(姓名イロハ順)

○明治三十三年七月卒業(一名)

水產講習所快鷹丸運轉士

○明治三十四年七月卒業(二名)

舊姓宮澤 黒田九萬男 香川士族

海外實業練習生(在諾威)

樺太民政署技手

○明治三十四年八月卒業(一名)

南摩紀磨 東京士族
藤田勳太郎 島根平民

富山縣水產講習所技手

○明治三十五年二月卒業(二名)

木村廣三郎 石川士族

房總遠洋漁業株式會社

高原剛太郎 福岡士族
志村次郎 東京士族

○明治三十五年七月卒業(三名)

金盛丸乘組

鹿兒島縣水產試驗場技手

鳥取縣水產試驗場技手

○明治三十六年一月卒業(一名)

石野敬之 千葉平民
松崎彌市 鹿兒島平民
森繁樹 鹿兒島士族

安全丸乘組

○明治三十六年十月卒業(一名)

高橋潤二 岡山平民

卒業生及其就職

水産講習所助教

九十四

○明治三十七年五月卒業(二名)

下田 奎一 鹿兒島士族

在米鱈漁業船乗組

小金丸 増次郎 福岡平民

○明治三十七年十一月卒業(一名)

岩手縣宮古水産學校教諭

戸田 半平 静岡平民

○明治三十八年一月卒業(二名)

千葉遠洋漁業株式會社(大島丸乗但)

前田 春水 東京平民

○明治三十八年三月卒業(二名)

三重丸乗組

松尾 秀夫 長崎士族

(三) 研究科 (二名) (姓名イロハ順)

漁撈科

○明治三十七年十二月卒業(二名)

遠洋漁業練習生(在英國)

日高 靖 宮崎平民

養殖科

○明治三十七年十一月卒業(一名)

愛知縣水産試驗場技手

今野 虎吉 福島平民

(四) 現業科 (八十二名) (姓名イロハ順)

漁撈科 (五名)

○明治三十三年三月卒業(巾着網專修)(五名)

自家營業

戸田 圓次 高知平民

自家營業

土井 常吉 新潟平民

自家營業

大橋 直吉 静岡平民

自家營業

紙子 次作 石川平民

自家營業

多屋 勝四郎 和歌山平民

製造科 (七十六名)

○明治三十一年十一月卒業(罐詰專修)(五名)

宮崎縣水産試驗場技手

河野 巖 宮崎平民

自家營業

加藤 明二 秋田平民

卒業生及其就職

九十五

石川縣水產會幹事

自家營業

千葉縣鴨川罐詰製造所技師

○明治三十二年十二月卒業罐詰專修(五名)

自家營業

自家營業

自家營業

自家營業

○明治三十三年十二月卒業罐詰專修(五名)

在米國

愛知縣罐詰製造所

愛知縣日本罐詰製造所

鹽井 與八 石川平民

廣瀨 宗義 鹿兒島平民

森 義直 京都士族

中村里次郎 愛知平民

內田藏次郎 島根平民

松浦善市 熊本士族

松坂豐隆 富山平民

菅波仙三郎 福島平民

及川鼎壽 宮城士族

村田新五郎 愛知平民

山田德松 宮崎平民

●梁瀨弘 長崎士族

近江罐詰製造所

○明治三十四年十二月卒業罐詰專修(五名)

自家營業

北海道水產試驗場技手

鹿兒島縣森罐詰製造所

自家營業

自家營業

○明治三十五年十二月卒業罐詰專修(六名)

京都府水產講習所

青森縣廣高組罐詰製造所

自家營業

自家營業(水產物製造販賣)

自家營業

自家營業

古川 德吉 滋賀平民

村江 保翼 長崎士族

小松 由平 千葉平民

宮內 喜一 鹿兒島平民

鈴木 兼助 愛知平民

菅原 養藏 宮城平民

糸井 藤吉 京都平民

米田 榮 青森平民

中尾 千代之助 鹿兒島平民

山田 忠五郎 東京平民

新井 元吉 和歌山平民

里見 時之助 山口平民

○明治三十六年十二月卒業(罐詰專修)(六名)

三重縣水産試驗場助手

井上三次郎

三重平民

自家營業

花見七治

北海道平民

長崎縣水産試驗場助手

金子房治

千葉士族

新潟縣水産試驗場助手

河合音治

愛知平民

自家營業

田村忠太夫

岩手平民

自家營業(清國上海)

黃桂芬

清國

○明治三十七年十一月卒業(罐詰專修)(八名)

自家營業

濱壽楠

和歌山平民

高知縣罐詰製造所

加藤磯次

富山平民

自家營業

八木佐吉

滋賀平民

自家營業

山田達

愛知平民

自家營業

松浦金平

兵庫平民

鹿兒島縣罐詰製造所

紺谷平治

石川平民

佐賀縣唐津罐詰製造所

相木嘉一

福井平民

熊本縣板瀬川水産罐詰製造所

森眞

靜岡平民

○明治三十二年三月卒業(魚油、魚蠟沃度專修)(五名)

三重縣志摩郡役所書記

田中清之助

三重平民

高知縣水産試驗場助手

山口三之助

千葉平民

自家營業

昆良八

岩手平民

自家營業

越瀨市松

和歌山平民

自家營業

佐藤義厚

茨城平民

○明治三十三年三月卒業(魚油、魚蠟沃度專修)(五名)

自家營業

畑谷丑太郎

北海道平民

自家營業

赤平卯十郎

青森平民

自家營業

●佐藤漁太郎

宮城平民

宮津吾式

山口平民

自家營業(靜岡縣罐詰製造所)

杉本傳太郎

靜岡平民

卒業生及其就職

○明治三十四年三月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)三名

自家營業	田中富佐	福井平民
自家營業	松本龜太郎	高知平民
自家營業	木高金之助	千葉平民

○明治三十四年十二月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)四名

高知縣浮津水産補習學校長	池内林太郎	高知平民
自家營業	熊谷伊三郎	福岡平民
自家營業	山口太助	佐賀平民
自家營業	森崎茂樹	靜岡平民

○明治三十六年四月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)四名

青森縣廣高組罐詰製造所	米田榮	青森平民
橫濱魚油株式會社	前田隆次郎	愛知平民
北海道水産試驗場技手	小松由平	千葉平民
自家營業	齋藤玉治	愛知平民

○明治三十六年十二月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)五名

自家營業	六久保直太郎	高知平民
自家營業	島山吉雄	宮城平民
自家營業	砥板源三郎	福岡平民
自家營業	古川九滿次	熊本士族
自家營業	坂口榮太郎	靜岡平民

○明治三十四年十月卒業(鯉節、其他節類專修)二名

高知縣水産試驗場助手	大黒一誠	高知平民
自家營業	齋藤初治	長崎平民

○明治三十五年十月卒業(鯉節、其他節類專修)五名

自家營業	秦信之助	島根士族
青森縣廣高組罐詰所	米田榮	青森平民
自家營業	熊谷伊三郎	福岡平民
自家營業	山本荒太郎	和歌山平民

卒業生及其就職

自家營業

在清國

自家營業

自家營業

○明治三十六年十二月卒業經節其他節類專修(三名)

山下藤三郎

鹿兒島平民

市川忠吉

山形平民

山岡則重

高知士族

安里積勳

神繩平民

(五) 水產教員養成科 (二十五名) (姓名イロハ順)

○明治三十一年十二月卒業(十五名)

海外實業練習生(在米國)

愛媛縣農學校教諭

市原佐太郎

高知士族

北海道龍田郡龜田尋常高等小學校長

羽生辨之進

愛知士族

靜岡縣富士農林學校 教諭

大竹敬造

北海道士族

新潟縣刈羽郡視學

加藤伊砂吉

靜岡士族

北海道水產學校教諭

片田久次郎

新潟士族

和歌山縣和歌山中學校教諭

加藤登太郎

山形士族

正富彌藏

岡山士族

自家營業

德島縣撫養鹽務局技手

青森縣技手

茨城縣屬

水產講習所助教兼書記

愛媛縣技手

秋田縣旭尋常小學校長

○明治三十六年四月卒業(十名)

愛媛縣私立住友總開尋常高等小學校教員

水產講習所助手

青森縣深浦水產補習學校訓導兼校長

臺灣臺南臺灣學校教諭

靜岡縣加茂郡實業補習學校訓導兼校長

舊姓藤原

正林英雄

長崎士族

秋保知次

京都士族

佐々木武治

青森平民

阪田良輔

福井平民

宮崎賢一

長崎士族

●滿岡彦三

佐賀士族

平山嘉右衛門

岩手平民

關菊治

秋田平民

西原佐一

愛媛平民

高江次郎八

熊本平民

長內清吾

青森平民

松波虎之助

和歌山平民

佐藤暹

岡山平民

卒業生及其就職

百三

島根縣技手
 茨城縣若松水產補習學校教諭兼校長
 鹿兒島市森鐘詰製造所技師
 宮城縣本吉郡水產學校教諭
 德島縣椿泊水產補習學校訓導兼校長

笹子治 千葉平民
 喜多川良吉 東京平民
 志水清 兵庫士族
 篠原直衛 廣島平民
 森川萬藏 福井平民

六、卒業生徒狀況

卒業生徒數一覽表 (明治三十八年六月調)

現業科 魚油、魚鱗、沃度 罐詰類 巾着網 研究科	遠洋漁業科	計	本科		卒業年別		合計
			養殖科	製造科	三十一年	卅二年	
					三十一年	卅二年	合計
		五六	九	三四	卅一年	卅二年	
		四二	五	二二	卅二年	卅三年	
		三五	八	一五	卅三年	卅四年	
		二〇	三	九	卅四年	卅五年	
		一一	三	三	卅五年	卅六年	
		二四	四	一三	卅六年	卅七年	
		二二	二	八	卅七年	卅八年	
					卅八年		
		二一〇	三四	一〇四	七二		

卒業生徒狀況

卒業生徒状況	北 海 道		内 務 省
	大 山 愛 廣	島 根 取 都 井 山 川 瀧 形 田	
	島 媛 口 分	島 根 取 都 井 山 川 瀧 形 田	青 岩 宮 福
	二 一 二	一 三 三 六	一 一 一 一
	一 一 三 六	一 二 一 七 二	一 三 三 一
	一 一 二 一	一 一 一 一	一 一 一 一
	二 二 七 七	三 六 五 三 二 二 二	二 五 四 二
	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一
	一 一 一 一	一 一 一 一	一 一 一 一
	一 一 二	一 一 一 三 二 二 二	四 二 四 一
	一 一 一 一	一 一 一 一 二 一 一	二 一 一 一
	三 三 九 七	五 八 七 七 四 六 五	八 八 九 四

卒業生徒状況

百七

東 海 道		科 別	計
和 歌 山 重 知 岡 川 京 葉 城	三 愛 靜 神 東 千 茨		
		漁撈科	本
		製造科	本
		養殖科	本
		計	本
		遠洋漁業科	本
		研究科	本
		現業科	本
		教員養成科	本
		合 計	本
			計

卒業生道府縣別表 (明治三十八年六月調)

總 計	教員養成科	計
一五	一五	一
六一	一	五
五二	一	一〇
五一	一	一五
三七	一	一四
二七	一	二一
五四	一〇	一八
三四	一	八
二	一	一
三三三	二五	八一

百六

科 本	科 類	別 別	卒業生就職状況一覽表 (明治三十八年六月調)	
			計	別
養殖科	漁撈科	自營	四九	五
製造科	漁撈科	商會及組合	二二	四
科	漁撈科	水産組合	一一	四
		官廳	二八	七
		水産講習所	一六	二
		水産試験場	三〇	三
		水産巡迴教師	一六	四
		水産學校	一三	六
		水産補習學校	一	一
		農學校		
		其他學校		
		學生	一一	〇
		在帝國大學	一一	一
		在實業練習生	一一	一
		在海外	一	三
		在國外乘船	一	一
		在留	三	一
		兵役	三	一
		一年志願	三	一
		征出	三	一
		死亡	三	一
		未詳	一	四
		總計	三四	一〇七

總計	外國		外				
	清	國	長岐	滋山	奈	栃	野
七二			一				
一〇四			二	一			
三四							
二一〇			二	一			
一五							
二							
八一				二			
二五							
三三三			二	一	三		

區	海東區北	區 海 南 西					區 海
		德高宮沖鹿熊佐長福	兒	島知城繩島本賀崎岡	坂庫川山		
群 埼	北 海 道	德高宮沖鹿熊佐長福	兒	島知城繩島本賀崎岡	坂庫川山	大兵香岡	
馬 玉		島知城繩島本賀崎岡				坂庫川山	
	三	一 二 四	一 五 二	一 六 六		一 一 一	
	一	五 三	一 六 四	四 一 二		一 四 二	
	一	六 五 四	一 三 六 七 七 九			一 七 三 一	
	二	一 六 二 一 四 二 一 三 三				一 一 一	
	一	一 一 一 一 二 一				一 一 二	
	一 七	六 二 六 一 〇 九 九 三 四				一 九 四 四	

總計	教員養成科	計	現業科				研究科	遠洋漁業科	計
			節約類	油蠟沃度	罐詰	巾着網			
七三	一	五	七	〇	二	五	一	一八	
三五	一	三	一	二	九	一	四	一八	
六三	一	一	一	一	一	一	一	五	
一六	四	一	一	一	一	一	一	一七	
五五	二	三	一	一	一	一	三	八	
二二	一	五	一	一	五	一	二	四六	
一三	一	一	一	一	一	一	一	二	
七	二	一	一	一	一	一	一	一〇	
二	五	一	一	一	一	一	一	一	
五	二	一	一	一	一	一	一	一	
一〇	一	一	一	一	一	一	一	一〇	
五	一	一	一	一	一	一	一	五	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	
四	一	一	一	一	一	一	一	一三	
三	一	一	一	一	一	一	一	三	
一一	一	三	一	一	一	一	一	八	
四	一	一	一	一	一	一	一	四	
二四	一	一	一	一	一	一	一	二四	
一七	一	二	一	一	一	一	一	一四	
七	一	一	一	一	一	一	一	五	
三三	二	八	一〇	三	四	五	二	三〇	

百十

第六章 試驗部

試驗部ノ事業成績ハ別ニ編成シテ報告スルヲ以テ茲ニ略ス

學友會

徳操ヲ研磋シ體育ヲ完全ナラシムルノ目的ニヨリ學生相謀リ本所監督ノ下ニ開會セルモノニシテ會員ノ會費及他ノ寄附金ヲ以テ其經費ヲ支フ本會ハ學藝部運動部ノ二部ニ分チ每學期一回大會ヲ毎月一回談話會ヲ開キ或ハ知名ノ士ヲ聘シ或ハ本所教官ノ講演ヲ乞ヒ生徒各自制裁ノ下ニ學生ノ美風ヲ發揚センコトヲ期スルモノナリ

水産講習所學友會規則

- 第一條 本會ハ智徳ヲ磨キ體力ヲ練リ一致協力以テ美風ヲ發揚センコトヲ期ス
- 第二條 本會ハ水産講習所學友會ト稱ス
- 第三條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス
 - 通常會員 本所在學生徒
 - 特別會員 本所教職員及本所ニ縁故アルモノ
 - 名譽會員 本會ニ功勞アルモノモシクハ名望アルモノニシテ會長ノ推撰ニヨル

水産講習所學友會規則

第四條 本會ニ左ノ二部ヲ置ク

學藝部 運動部

但シ各部ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	一名	本會ヲ統理ス
部長(各部)	一名	各其事務ヲ監理ス
副部長(同)	一名	部長ヲ補佐ス
會計	二名	本會ノ出納ヲ監理ス
委員	若干名	各部ノ雜務ヲ取扱フ
專務委員		委員ノ互撰ニヨリ各部三名ヲ置キ各部ノ雜務ヲ取扱ヒ會計ヲ補佐ス

第六條 本所々長ヲ會長トシ部長副部長及會計ハ本所職員中ヨリ通常會員ノ選舉ニヨリ會長之ヲ任シ委員ハ通常會員ノ互選ニヨリ會長之ヲ命ズ

第七條 部長副部長及會計ノ任期ハ各一ケ年トシ委員ノ任期ハ大會ヨリ次ノ大會

マデトシ再選ヲ妨ス

第八條 本會ハ每學期一回大會ヲ開ク

但シ會員拾名以上ノ申出ニヨリ會長へ認可ヲ得テ臨時大會ヲ開クコトヲ得

第九條 本會ノ經費ハ通常會員ノ會費及ビ寄附金ヲ以テ支辨スルモノトス

第十條 通常會員ノ會費ハ一學年間金壹圓五十錢トシ各學期ノ初メニ於テ分納スルモノトス

第十一條 本會經費ノ支出ハ大會ニ於テ決議シタル豫算ニ從ヒ臨時ノ支出ハ役員會ノ評決ニヨリ定ム

第十二條 本會ノ規則ハ大會ノ決議ヲ經會長ノ認可ヲ受クルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ

學藝部規程

第一條 本部ノ事業ハ左ノ如シ

談話 隔月一回

書類購讀

水産講習所學友會規則

第二條 本部ノ委員ヲ三名トス

運動部規程

第一條 本部ノ事業ハ左ノ如シ

柔道 擊劍 球技 其他

第二條 本部ノ委員ハ三名トシ其他ハ必用ニ應ジテ臨時ニ之ヲ置クモノトス

第三條 運動及技術獎勵ノ爲メ時々競技會ヲ行フコトアルベシ

明治三十八年十月十四日印刷

明治三十八年十月十八日發行

水産講習所

印刷者 杉田 鑛藏

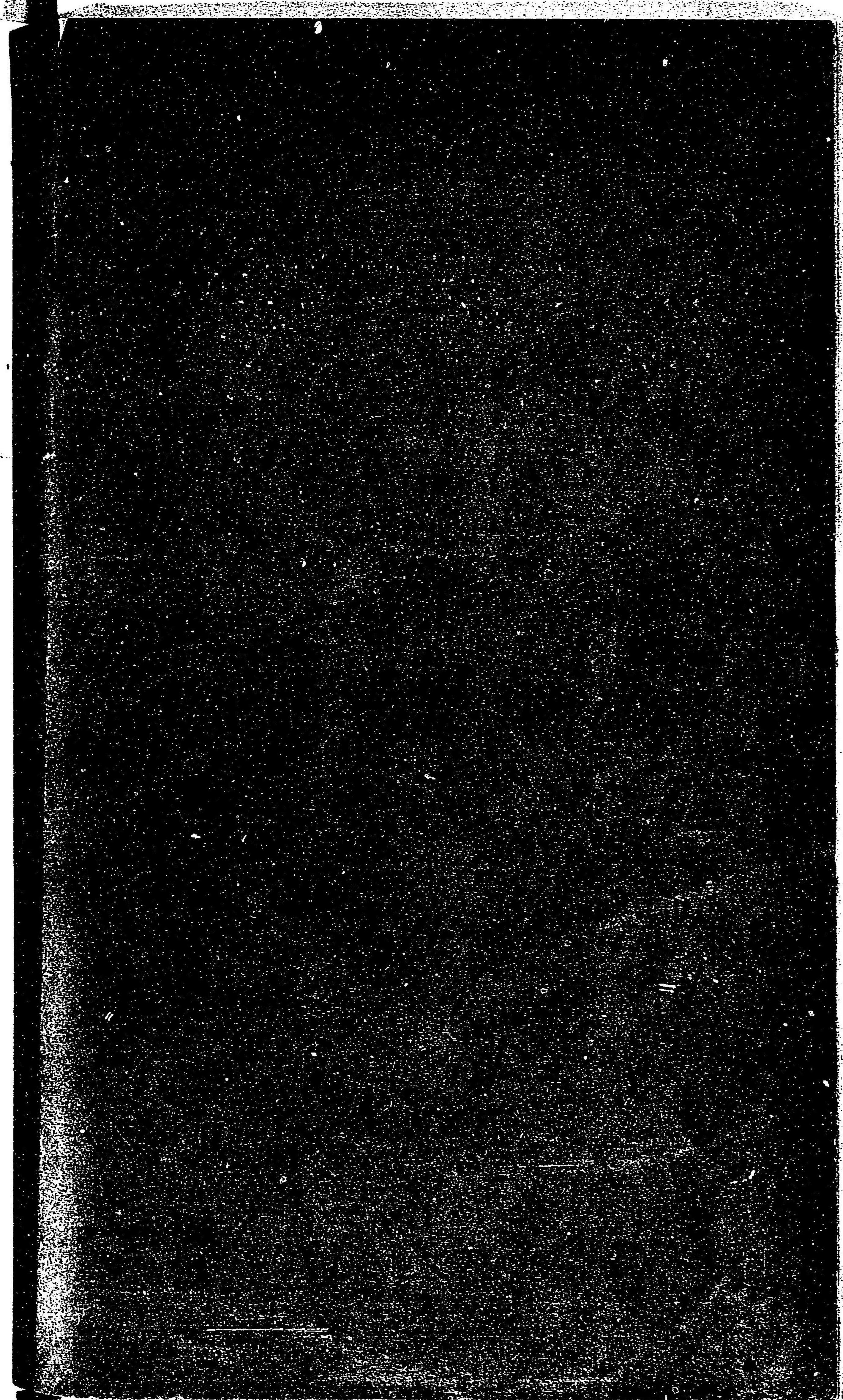
東京市神田區錦町
二丁目六番地

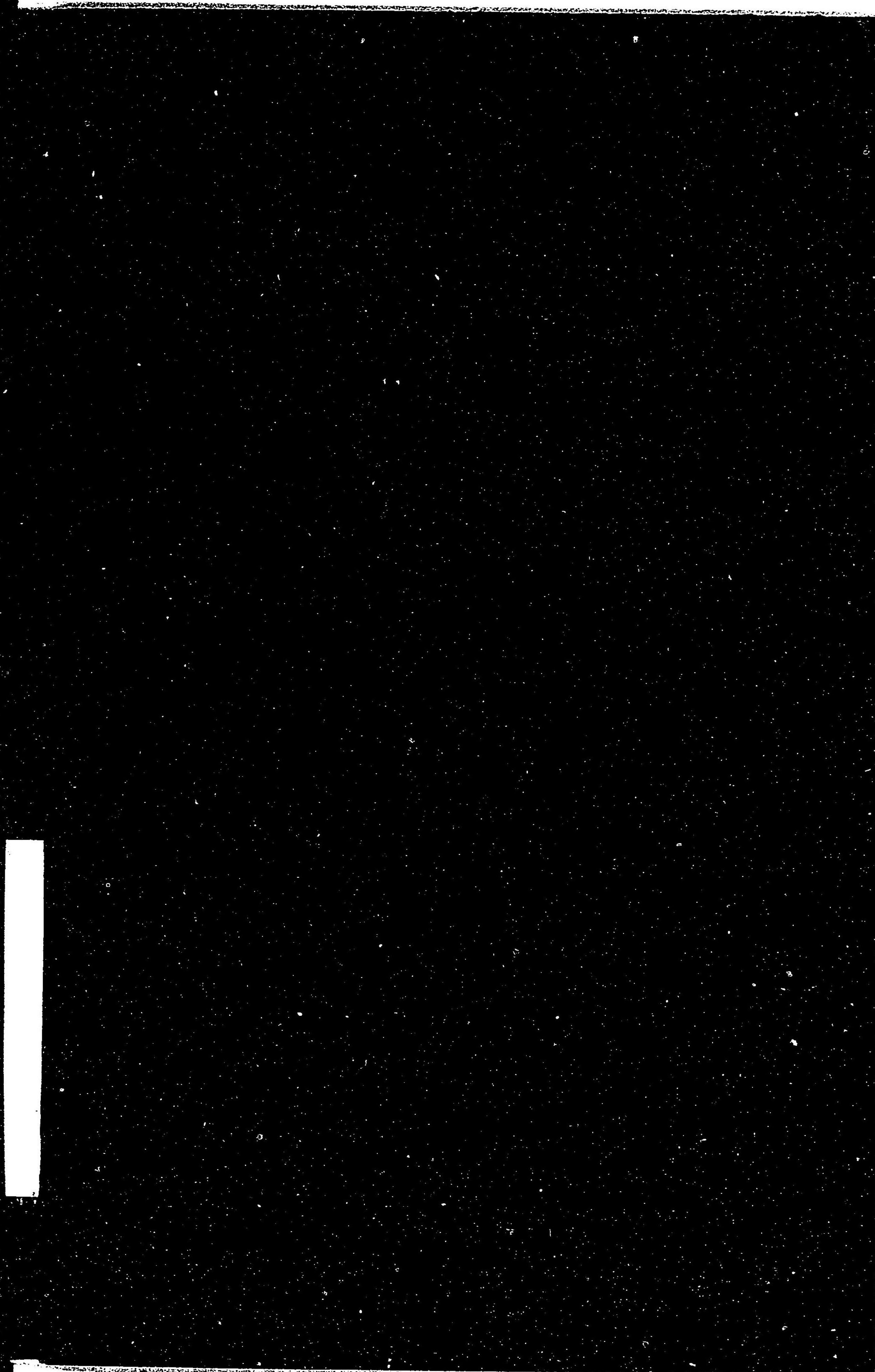
印刷所 共成 舍

東京市神田區佐久間町
一丁目十九番地



IT5N-4





296

3